

京都大学生態学研究センター
業績目録

Publication List
Center for Ecological Research, Kyoto University

第12巻（2002年）
2003（平成15）年 3月

Volume 12（2002）
March , 2003

京都大学

生態学研究センター・ニュース No. 80

京大大学生態学研究センター Center for Ecological Research,
〒520-2113 滋賀県大津市 Kyoto University
上田上平野町字大塚509-3 Kamitanakami Hiranouchi,
Tel : (077) 549-8200 (代表) Otsu, Shiga, 520-2113, Japan
Fax : (077) 549-8201
センター長 山村則男 Home page: <http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp>

はじめに

2002年度は、第2期生態学研究センターが発足して2年目の年でした。1年後の法人化後には、生態学研究センターは文部科学省が直接認可する組織から、京都大学の学内措置という位置づけに変更となります。つまり、学内の方針で組織の改廃などが可能となるはずですが、このことは、組織体制を流動的に変更していきけるという長所もありますが、しっかり成果を上げていかないと組織の廃止に至る危険もあるということです。幸い、生態学研究センターは、理学研究科生物科学専攻と霊長類研究所とともに、「生物多様性科学の統合のための拠点形成」で、21世紀COE拠点に選ばれました。審査の時に、総長は拠点を大学が全面的にサポートすることを約束しています。従って、後4年間は大学のサポートを受けられるはずですが、それ以後はどのように展開するか未知数です。学内外へのPR、優れた業績の積み上げが欠かせません。

ここに、センターの研究活動、および、構成メンバーである教官・研究員・学生、そして日頃ご協力をいただいている協力研究員の研究業績をまとめることができました。これらの研究成果をさらに発展させることができるように、当センターは最大限の努力をしていきたいと考えています。今後とも、当センターへの叱咤激励、そしてご協力をよろしくお願ひいたします。

2003年 3月

京大大学生態学研究センター長 山村 則男

目 次

活動報告	1
共同研究	6
著作リストの収録内容と凡例	10
A. Staffs スタッフ	11
B. Graduate Students and Research Fellows 大学院生・研修員	23
C. Guest Scientists 協力研究員	25
HARAGUCHI, Akira 原口 昭	
HATTORI, Akihisa 服部昭尚	
IMAI, Ichiro 今井一郎	
INUBUSHI, Kazuyuki 犬伏和之	
ITINO, Takao 市野隆雄	
ITIOKA, Takao 市岡孝朗	
ITO, Akihide 伊藤彰英	
KAMEDA, Kayoko 亀田佳代子	
KANEKO, Nobuhiro 金子信博	
KAWANABE, Hiroya 川那部浩哉	
KOHMATSU, Yukihiro 神松幸弘	
KONNO, Yasuo 紺野康夫	
MATSUBARA, Takeshi 松原健司	
MINOURA, Koji 箕浦幸治	
NAKAGOSHI, Nobukazu 中越信和	
NOZAKI, Kentaro 野崎健太郎	
OCHI, Haruki 越智晴基	
OHTAKA, Akifumi 大高明史	
OKUDA, Noboru 奥田 昇	
SAKAMOTO, Kazunori 坂本一憲	
SAKIO, Hitoshi 崎尾 均	
SAKURAI, Katsutoshi 櫻井克年	
SUGIYAMA, Yukimaru 杉山幸丸	
SUZUKI, Eiji 鈴木英治	
TADAKI, Yoshiya 只木良也	
TAYASU, Ichiro 陀安一郎	
UEDA, Keisuke 上田恵介	

WADA, Eitaro 和田英太郎
WATANABE, Akira 渡辺 彰
WATANABE, Mamoru 渡辺 守
YACHI, Shigeo 谷内茂雄
YOSHIOKA, Takahito 吉岡崇仁

生態研セミナー	41
調査船「はす」運航表	44
あとがき	46

生態学研究センターでは、2002年度に次のような共同利用事業およびセンター運営の活動を行いました（括弧内は当該報告が掲載されているセンターニュース）。

1．共同研究

2002年度にセンターが行った共同研究は31件であった。プロジェクト研究としては、2002年度より「文部科学省研究拠点形成費補助金（研究拠点形成費）[21世紀COEプログラム]」（代表者：西田利貞）が、京都大学の複数の部局間の協力の下でスタートした。そのほか、日本学術振興会学術創成研究費1件、日本学術振興会科学研究費基盤研究(A)7件、日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)6件、日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)2件などの共同研究が行われた（本号6ページ）。

2．協力研究員

センターとしての研究活動をより推進するために、学内外の研究者に協力研究員を委嘱している（任期2年間）。現在55名が任命されている（センターニュースNo. 77にリスト、No. 79に追加リスト）。

3．公募研究会など公募事業

センターでは2002年度に3件の公募研究会、3件の公募実習を行った。

公募研究会：

1) 「GIS（地理情報システム）による分布様式、行動様式の解析」

代表者：田中和博（京都府立大学大学院農学研究科） 実施期日（場所）：2002年6月26日（キャンパスプラザ京都） 参加者：106名（センターニュースNo. 77）

2) 「生物間相互作用網の多様性促進機能」

代表者：市岡孝朗（名古屋大学大学院生命農学研究科） 実施期日（場所）：2002年11月29日 - 30日（京大・生態研センター） 参加者：40名（センターニュースNo. 79）

3) 「生態系のデザイン方法論をめぐって」

代表者：永田俊（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2003年3月14日 - 15日（京大・生態研センター） 参加者：50名

公募実習：

1) 「底生動物の分類生態実習」

代表者：成田哲也（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2002年 7月27日 - 8月 1日（信州大・山地水環境教育研究センター） 講師：3名、受講者：2名（センターニュースNo. 78）

2) 「河川生態系の環境構造と生物群集に関する基礎実習」

代表者：川端善一郎・遊磨正秀（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2002年 8月 6日 - 13日（京大理学部・木曾生物学研究所） 講師：6名、受講者：8名（センターニュースNo. 78）

3) 「陸域土壌生態系における大型ミミズ類の生態調査法および種同定法の習得」

代表者：伊藤雅道（横浜国立大学大学院環境情報研究院） 実施期日（場所）：2002年 8月19日 - 21日（金沢大学理学部） 講師：7名、受講者：10名（センターニュースNo. 78）

その他：

1) 「第4回屋久島フィールドワーク講座」

世話人：湯本貴和（京大・生態研センター） 野間直彦（滋賀県立大・環境科学） 実施期日（場所）：2002年 8月18日 - 25日（屋久島） 主催：上屋久町、共催：屋久町、屋久島環境文化財団、京都大学生態学研究センター、京都大学霊長類研究所、講師：9名、受講者：16名（センターニュースNo. 78）

4. 国際シンポジウム

2002年度には、4件の国際シンポジウムを行った。

1) 第4回日英米ワークショップ「生物多様性と生態複合」

世話人：甲山隆司（北海道大学） 実施期日（場所）：2002年 7月 9日 - 12日（北海道大学） 参加人数：40名（センターニュースNo. 78）

2) DIVER/DIWPA 生物多様性国際シンポジウム

世話人：永田俊（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2002年11月14日 - 15日（京大会館） 参加人数：62名（センターニュースNo. 79）

3) 「DIWPA-IBOYのための標本作成と生物多様性情報に関するワークショップ」

世話人：北山兼弘（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2002年11月18日 - 21日（北海道大学総合博物館） 参加人数：9名（センターニュースNo. 79）

4) 21世紀COE国際シンポジウム「生物多様性研究の統合に向かって」

世話人：山村則男（京大・生態研センター） 西田利貞（京大・理学研究科） 実施期日（場所）：2003年 3月26日 - 27日（京大会館） 参加延べ人数：200名

5．公開シンポジウム

2002年度には、1件の公開シンポジウムを行った。

1) 「大学と科学」公開シンポジウム

世話人：永田俊（京大・生態研センター） 実施期日（場所）：2002年12月7日 - 8日（イムズホール、福岡市） 参加人数：213名（センターニュースNo. 79）

6．生態研セミナー

このセミナーは生態学研究センターの共通セミナーとして定期的に関催。2002年度には14回（オーガナイザー：山内淳）開催した。毎月1回（原則として第3金曜日）毎回2名に1時間ずつ（発表50分、議論10分）話題を提供していただいた。会場は生態学研究センターで行った。センター内から10名、海外からは9名の講演者があった。参加人数は各回30名から70名、延べ1000名であった（本号41ページ）。

7．ニュースレターの発行

センターの活動を全国の生態学に興味を持たれている方々に知っていただくため、ニュースレターを発行した。2002年度は第76号（業績目録、3月）、第77号（7月20日）、第78号（11月20日）、第79号（3月20日）を発行した。現在、個人780件、機関340件、計1120件に送付されている。ニュースレターでは、生態学研究センターの活動のみならず、広く生態学一般の情報を提供している。

8．共同利用施設の充実

- 1) 大型分析機器：安定同位体比精密測定用分析システムは、水の酸素・水素同位体比分析システムとGCCMS（ガスクロ燃焼装置付きオンライン質量分析）を装備した質量分析計と、有機物中の炭素および窒素同位体比オンライン自動分析装置（コンフロ）を装備した質量分析計が稼働している。両者ともほぼ毎日利用され、利用日数はそれぞれ204日、267日であった。利用延べ人数はそれぞれ、233人、405人で、このうち32人、153人が学内学外からの共同利用であった。

本センターのDNA解析システムはDNAシーケンサー(AB)、微量タンパク質分析装置、プロテインシーケンサー、定量用ライトサイクラー、アミノ酸アナライザー、PCRなどからなる。遺伝子DNAの構造解析、発現パターンの制御、機能性タンパク質の構造と機能解明を、生態学研究の視点から展開できる設備となっている。2002年度における、このDNA解析システムの延べ人数は約200人で、センター以外

の共同利用研究者は、京大総合人間学部、京大大学院人間環境学研究科、横浜国立大学、奈良女子大学理学部などであった。

- 2) シンバイオトロン：シンバイオトロンは、物理、化学、生物的複合環境を人為的に制御できる環境制御装置で、2000年度末から稼働している。シンバイオトロンは陸域実験生態系のテラトロン、水域実験生態系のアクアトロン、および昆虫行動解析システムのズートロンから構成されている。テラトロンとアクアトロンは、センターの敷地内のコンテナの中に、ズートロンはセンター研究棟の中に設置されている。今年度は、生物多様性の創出過程、維持機構、崩壊過程および生物多様性と生態系機能との関係を明らかにするための基礎実験として、土壌内水流動、遺伝子の水平伝播、動植物プランクトンの相互作用、昆虫体内時計の解析のためにセンターの教官によって利用された。
- 3) 生態情報アクセスシステム：京都大学理学部附属大津臨湖実験所により1965年に開始された琵琶湖定期観測は、1990年より生態学研究センターに引き継がれ、今日まで継続的に実施されている。本定期観測により得られたデータのうち、水温、pH、透明度、溶存酸素濃度、クロロフィル濃度について、データベース化を行い、これをホームページ上で公開するための準備を行った（2003年3月に公開予定）。
- 4) 船の利用：1998年3月にセンターの新造船高速観測調査船『はす』が竣工した。全長12.5m・総トン数8.5トン、耐食アルミニウム合金製で巡航速度20ノット、主な観測航海機器として、DGPS・レーダー・魚群探知機・真風向風速計・流向流速計・ジャイロコンパス・デジタル水温計・航法インターフェイス・マルチプロファイラー（SBE911plus）・ダビットウインチ・アーマードケーブル等を装備している。『はす』は、センターの調査・観測だけでなく、琵琶湖で調査や実習をされる方々にも共同利用されている。（<http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/cooperate/ship/ship.html>）2002年度、センターが実施している毎月1回の定期観測・センター教官との共同研究及び共同利用の総運航日数は88日、延べ乗船者数346名であった。この内、共同利用運航日数は28日、延べ乗船者数64名であった。

9. 協議員会・運営委員会の開催

2002年

- 5月13日 運営委員会（第31回）（議題：概算要求、独立法人化）（センターニュース No. 77）
- 5月13日 協議員会（第41回）（議題：概算要求、独立法人化）（センターニュース No. 77）
- 6月21日 協議員会（第42回）（議題：受託研究員）（書面による）（センターニュース No. 77）

2003年

- 1月16日 運営委員会（第32回）（議題：教官人事）（書面による）（センターニュース

No. 79)

2月19日 運営委員会(第33回)(議題:独立法人化、21世紀COEプログラム、教官人事、その他)(センターニュースNo. 79)

2月19日 協議員会(第43回)(議題:独立法人化、21世紀COEプログラム、教官人事、センター長候補の選考、その他)(センターニュースNo. 79)

共同研究

2002年度の文部科学省科学研究費などによるセンタースタッフが関係した共同研究をまとめました。研究者は代表者を筆頭とし、センタースタッフは斜体文字で示し、センタースタッフ以外の研究分担者については省略してあります。

西田利貞（京大・理学）・*山村*・高林・北山・*占部*・杉本ほか

「生物多様性研究の統合のための拠点形成」

2002-2006 文部科学省研究拠点形成費補助金（研究拠点形成費）[21世紀COEプログラム]

塚本勝巳（東大・海洋研）・永田ほか

「海洋生命系のダイナミクス」

2000-2004 日本学術振興会学術創成研究費

*川端*ほか

「アクアトロンを用いた水域生態系における遺伝子の伝播と発現機構の解析」

2001-2003 日本学術振興会科学研究費基盤研究（A1）

永田・*川端*ほか

「水圏における複合有機コロイド系の動態を支配する生物複雑性メカニズムに関する研究」

2001-2003 日本学術振興会科学研究費基盤研究（A1）

和田（地球研）・清水・高見ほか

「温暖化と地球環境攪乱が生物多様性、生態系サービスそして人間社会に及ぼす複合効果：マルチスケールアプローチ」

2000-2002 日本学術振興会科学研究費基盤研究（A1）

菊沢喜八郎（京大・農学）・藤田ほか

「常緑性・落葉性とその地理分布におよぼす樹木の葉のフェノロジーに関する研究」

2000-2002 日本学術振興会科学研究費基盤研究（A1）

北山・清野ほか

「樹木多様性と熱帯降雨林生態系機能の関係の解明」

2001-2004 日本学術振興会科学研究費基盤研究（A2）

高林・大串・山村ほか

「植物間ケミカルコミュニケーションの分子生態学的基盤」

2002-2004 日本学術振興会科学研究費基盤研究（A2）

森本幸裕（京大・農学）・遊磨ほか

「生態系ミティゲーションにおけるHEPの開発」

2002-2005 日本学術振興会科学研究費基盤研究（A2）

湯本ほか

「東南アジアの熱帯林生態系におけるトップダウン効果の検証」

2001-2004 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B1海外）

占部・清水・成田ほか

「ミジンコ休眠卵を用いた琵琶湖生物群集の近過去復元に関する研究」

2000-2002 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B2）

永田・川端・山村・占部ほか

「急激な水循環異変が懸念される東アジア巨大湖の生態・環境動態に関する緊急学術調査」

2001-2002 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B2海外）

藤田・山村ほか

「地球環境変動と人間活動がモンゴル遊牧草原の持続的利用に与える影響」

2002-2004 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B2海外）

和田（地球研）・藤田ほか

「モンゴル - セレンゲ河 - バイカル湖水系の陸域生態系における地球環境変化に対する応答」

2000-2002 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B2海外）

斎藤裕（北大・農学）・山内ほか

「捕食者 - 被食者複合系ダイナミクス下における防衛戦略分断と種多様化に関する研究」

2001-2002 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B2）

清水ほか

「社会性昆虫ミツバチにおけるリズム生成機構：給餌 (feeding) サイクルと時計遺伝子 (per gene) の発現調節」

2001-2003 日本学術振興会科学研究費基盤研究（C2）

勝矢淳雄（京都産業大）・遊磨ほか

「バイオリージョナリズムに基礎をおく京都の自然と生活文化に関する調査およびその展開」

2001-2002 日本学術振興会科学研究費基盤研究（C2）

杉本ほか

「水の安定同位体解析による広域水循環過程の研究」

2000-2002 海洋科学技術センター フロンティア研究推進室

中西（地球研）・占部・山村ほか

「湖沼生態系機能と人間活動の共役的応答に関する研究：水と人間の係わりの過去・現在・未来」

2002-2002 総合地球環境学研究所 研究プロジェクト（F S）

久保田耕平（東大・農学生命科学）・高見ほか

「極東アジア（韓国および日本）におけるオサムシ類の多様性および進化過程の解明」

2002-2003 日韓科学協力事業（共同研究）

高林・山村ほか

「天敵の行動制御による中山間地（京都府美山町）における減農薬害虫防除技術の開発」

2002-2006 生研機構 新事業創出研究開発事業

高林ほか

「樹木の香りが媒介する森と生物とのケミカルコミュニケーション連鎖」

2000-2002 旭硝子財団研究助成金

遊磨ほか

「外来生物の侵入・定着のリスク評価に対する生態学的研究 - 外来生物種の有効的管理にむけて - 」

2001-2002 日本生命財団一般研究助成

占部ほか

「森林内の河川密度が鳥類の群集構造に及ぼす影響に関する研究」

2002-2002 河川環境管理財団 河川整備基金助成事業

大串ほか

「河畔林の生物多様性と物質循環を促進する生物間相互作用に関する研究」

2002-2003 河川環境管理財団 河川整備基金助成事業

志村純子（国立環境研）・北山・山村・遊磨・湯本ほか

「生物多様性情報学基盤の先導的構築 西太平洋アジア地域の生物多様性一斉観測に関する研究」

2001-2003 科学技術振興調整費

高林・清水ほか

「植物の害虫に対する誘導防衛の制御機構」

2001-2005 科学技術振興事業団 戦略的基礎研究

北山ほか

「熱帯林の林冠における生態圏 - 気圏相互作用のメカニズムの解明」

2002-2003 科学技術振興事業団 戦略的基礎研究

杉田倫明（筑波大・地球科学系）・杉本ほか

「北東アジア植生変遷域の水循環と生物・大気圏の相互作用の解明」

2001-2005 科学技術振興事業団 戦略的基礎研究

北山ほか

「地球温暖化の生物圏への影響、適応、脆弱性評価に関する研究（アジアの熱帯林生態系の影響、脆弱性の評価に関する研究）」

2002-2004 環境省地球環境研究総合推進費

永田ほか

「琵琶湖深水層生態系調査に関する研究」

2002-2003 滋賀県受託研究

著作リストの収録内容と凡例

1. 第12巻著作リストには生態学研究センターの構成員（スタッフ，大学院生および研修員）および協力研究員が，2002（平成14）年（「年度」ではない）に発表した著作を収録します．印刷中のものも，発表年が2003年以降になるものは収録しません．
2. 配列は，(A) スタッフ，(B) 大学院生および研修員，(C) 協力研究員のそれぞれについて，名前のアルファベット順です．協力研究員については，初代センター長を除いて，各巻ごとに1)からはじまるナンバーをふります．スタッフと大学院生については，著作の種別（「原著論文」，「著書」，「その他」）ごとに示しています．「著書」は，単著か編著のいずれかに限り，分担執筆は内容によって「原著論文」か「その他」に区分してあります．
3. 協力研究員については，著作リストに載せる・載せないは，各研究員の自由意志とし，「載せてもよい」と判断された方の，そして判断された著作だけを収録しています．ご協力ありがとうございました．
4. 印刷の形式は欧文・和文にかかわらず以下の3通りとしました：
 - (a) 定期刊行学術誌掲載の論文など
ナンバー) 著者名 {; 著者名, ...} (刊行年) 論文タイトル. 定期刊行物名 巻: 始ページ-終ページ.
 - (b) 単行本（含翻訳）など
ナンバー) 著者名 {; 著者名, ...} (刊行年) 著書タイトル. 総ページ pp. 出版社, 所在地.
 - (c) 単行本のなかに掲載の論文など
ナンバー) 著者名 {; 著者名, ...} (刊行年) 論文タイトル. In: 単行本名. (ed. by 編者名 {; ...}) pp. 始ページ-終ページ. 出版社, 所在地.

原著論文

ABE, Takuya 安部琢哉 † _____

- Tayasu, I.; Hyodo, F., Abe, T., Inoue, T. and Spain, A.V. (2002) Nitrogen and carbon stable isotope ratios in the sympatric Australian termites, *Amitermes laurensis* and *Drepanotermes rubriceps* (Isoptera: Termitidae) in relation to their feeding habits and the quality of their food materials. *Soil Biology and Biochemistry* 34: 297-301.
- Tayasu, I.; Hyodo, F. and Abe, T. (2002) Caste-specific N and C isotope ratios in fungus growing termites with special reference to uric acid preservation and their nutritional interpretation. *Ecological Entomology* 27: 355-361.
- Tayasu, I.; Nakamura, T., Oda, K., Hyodo, F., Takematsu, Y. and Abe, T. (2002) Termite ecology in a dry evergreen forest in Thailand in terms of stable- (^{13}C and ^{15}N) and radio- (^{14}C , ^{137}Cs and ^{210}Pb) isotopes. *Ecological Research* 17: 195-206.
- Fujita, A.; Abe, T. (2002) Amino acid concentration and distribution of lysozyme and protease activities in the guts of higher termites. *Physiological Entomology* 27(1): 76-78.
- Fujita, A.; Minamoto, T., Shimizu, I. and Abe, T. (2002) Molecular cloning of lysozyme-encoding cDNAs expressed in the salivary gland of a wood-feeding termite, *Reticulitermes speratus*. *Insect Biochem. Mol. Biol.* 32: 1615-1624.

FUJITA, Noboru 藤田 昇 _____

- Noboru, F.; Uchida, T. and Wada, E. (2002) Biodiversity and sustainability of Mongolian herbaceous plants subjected to nomadic grazing. *DIWPA series* 3: 101-109.

HIGASHI, Masahiko 東 正彦 † _____

- Yoshiyama, K.; Higashi, M. (2002) Nutrient modeling: light-nutrient balance mechanism for algal blooms and vertical patterns of phytoplankton. In: *New scope on sustainable watersheds in east Asia*. (ed. by Fujita, N.; Timoshkin, O.A., Urabe, J. and Wada, E.) pp. 13-20. Nauka-Center, Novosibirsk.
- Genkai-Kato, M.; Sekino, T., Yoshida, T., Miyasaka, H., Khodzher, T.V., Belykh, O.A., Melnik, N.G., Kawabata, Z., Higashi, M. and Nakanishi, M. (2002) Nutritional diagnosis of phytoplankton in Lake Baikal. *Ecological Research* 17: 135-142.

- Kagami, M.; Yoshida, T., Gurung, T.B. and Urabe, J. (2002) Direct and indirect effects of zooplankton on algal composition in in situ grazing experiments. *Oecologia* 133: 356-363.
- Kagami, M.; Urabe, J. (2002) Mortality of the planktonic desmid, *Staurastrum dorsidentiferum*, due to interplay of fungal parasitism and low light conditions. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 28: 1001-1005.

- Nishibe, Y.; Kawabata, Z. and Nakano, S. (2002) Grazing on *Microcystis aeruginosa* by the heterotrophic flagellate *Collodictyon triciliatum* in a hypertrophic pond. *Aquatic Microbial Ecology*: 173-179.
- Kawabata, Z.; Manage, P.M., Miyai, Y., Hisamoto, M. and Miyai, M. (2002) Cavitation control as a means of reducing algal biomass in pond waters. *Japanese Journal of Water Treatment Biology* 38(4): 203-210.
- Urabe, J.; Elser, J.J., Kyle, M., Sekino, T. and Kawabata, Z. (2002) Herbivorous animals can mitigate unfavorable ratios of energy and material supplies by enhancing nutrient recycling. *Ecology Letters* 5(2): 177-185.
- Floder, S.; Urabe, J. and Kawabata, Z. (2002) The influence of fluctuating light intensities on species composition and diversity of natural phytoplankton communities. *Oecologia* 133: 395-401.
- Genkai-Kato, M.; Sekino, T., Yoshida, T., Miyasaka, H., Khodzher, T.V., Belykh, O.A., Melnik, N.G., Kawabata, Z., Higashi, M. and Nakanishi, M. (2002) Nutritional diagnosis of phytoplankton in Lake Baikal. *Ecological Research* 17: 135-142.
- Manage, P.M.; Kawabata, Z., Nakano, S. and Nishibe, Y. (2002) Effect of heterotrophic nanoflagellates on the loss of virus-like particles in pond water. *Ecological Research* 17: 473-479.
- Ishii, N.; Takeda, H., Doi, M., Fuma, S., Miyamoto, K., Yanagisawa, K. and Kawabata, Z. (2002) A new method using enhanced green fluorescent protein (EGFP) to determine grazing rate on live bacterial cells by protists. *Limnology* 3: 47-50.
- Tomaru, Y.; Ebisuzaki, S., Kawabata, Z. and Nakano, S. (2002) Respiration rates of the Japanese pearl oyster, *Pinctada fucata martensii*, feeding on *Pavlova lutheri* and *Chaetoceros gracilis*. *Aquaculture Research* 33: 33-36.
- Tomaru, Y.; Kumatabara, Y., Kawabata, Z. and Nakano, S. (2002) Effect of water temperature and chlorophyll abundance on shell growth of the Japanese pearl oyster, *Pinctada fucata martensii*, in suspended culture at different depths and sites. *Aquaculture Research* 33: 109-116.
- Kitamura, S.; Tomaru, Y., Kawabata, Z. and Suzuki, S. (2002) Detection of marine birnavirus from Japanese pearl oyster *Pinctada fucata* and seawater from different depth. *Diseases of Aquatic*

Organisms 50: 211-217.

府馬正一; 石井伸昌, 武田洋, 川端善一郎, 一政祐輔 (2002) モデル実験生態系に対する線と酸性化の複合影響. RADIOISOTOPES 51: 204-213.

Fuma, S.; Ishii, N., Takeda, H., Miyamoto, K., Yanagisawa, K., Ichimasa, Y., Saito, S. and Kawabata, Z. (2002) Characterization of simple aquatic microcosm for ecotoxicity screening. Japanese Journal of Environmental Toxicology 5(2): 51-63.

Tomaru, Y.; Udaka, N., Kawabata, Z. and Nakano, S. (2002) Seasonal change of seston size distribution and phytoplankton composition in bivalve pearl oyster *Pinctada fucata martensii* culture farm. Hydrobiologia 481: 181-185.

KITAYAMA, Kanehiro 北山兼弘

Kitayama, K.; Aiba, S. (2002) Ecosystem structure and productivity of tropical rain forests along altitudinal gradients with contrasting soil P pools on Mount Kinabalu, Borneo. Journal of Ecology 90: 37-51.

Takyu, M.; Aiba, S. and Kitayama, K. (2002) Effects of topography on tropical lower montane forests under different geological conditions on Mount Kinabalu, Borneo. Plant Ecology 159: 35-49.

Aiba, S.; Kitayama, K. (2002) Effects of the 1997-98 El Nino drought on rain forests of Mount Kinabalu, Borneo. Journal of Tropical Ecology 18: 215-230.

Kamijo, T.; Kitayama, K. et al. (2002) Primary succession of the warm-temperate broad-leaved forest on a volcanic island, Miyake-jima, Japan. Folia Geobotanica 37: 71-91.

Kitayama, K.; Aiba, S. (2002) Control of organic carbon density in vegetation and soils of tropical rain forest ecosystems on Mount Kinabalu. Sabah Parks Nature Journal 5: 71-90.

Aiba, S.; Kitayama, K. and Repin, R. (2002) Species composition and species-area relationships of trees in nine permanent plots in altitudinal sequences on different geological substrates of Mount Kinabalu. Sabah Parks Nature Journal 5: 7-70 .

Takyu, M.; Aiba, S. and Kitayama, K. (2002) Beta diversity and forest structural changes along topographical gradients on different geological substrates in tropical montane forests on Mt. Kinabalu. Sabah Parks Nature Journal 5: 165-218.

Kikuzawa, K.; Suzuki, S., Umeki, K. and Kitayama, K. (2002) Herbivorous impacts on tropical mountain forests implicated by fecal pellet production. Sabah Parks Nature Journal 5: 131-142.

Nomura, N.; Kikuzawa, K. and Kitayama, K. (2002) Foliar phenology and soil moisture condition in three tropical rain forests on Mount Kinabalu in relation to the 1998 El Nino drought. Sabah Parks Nature Journal 5: 111-130.

Iwamoto, K.; Kitayama, K. (2002) Abundances of ectomycorrhizas on the slope of Mount Kinabalu, Borneo. Sabah Parks Nature Journal 5: 239-255.

Kitayama, K.; Nais, J. (2002) Perspectives of the long-term ecological research on Mount

Kinabalu. Sabah Parks Nature Journal 5: 1-6.

北山兼弘; 相場慎一郎, 武生雅明 (2002) 炭素とミネラルのバランスから見た山地熱帯林生態系の動態. 日本生態学会誌 52: 125-129.

KONDOH, Michio 近藤倫生

Kondoh, M.; Okuda, N. (2002) Mate availability influences filial cannibalism in fish with paternal care. *Animal Behaviour* 63: 227-233.

Miki, T.; Kondoh, M. (2002) Feedbacks between nutrient cycling and vegetation predict plant species coexistence and invasion. *Ecology Letters* 5: 624-633.

MAKINO, Wataru 牧野 渡

Makino, W.; Urabe, J., Elser, J.J. and Yoshimizu, C. (2002) Evidence of phosphorus-limited individual and population growth of *Daphnia* in a Canadian Shield lake. *Oikos* 96: 197-205.

Urabe, J.; Makino, W., Hayakawa, K. and Elser, J.J. (2002) Food quality determinants for *Daphnia* growth in P-limited lakes. *Verh. internat. Verein. Limnol.* 28: 1089-1094.

Urabe, J.; Kyle, M., Makino, W., Yoshida, T., Andersen, T. and Elser, J.J. (2002) Reduced light increases herbivore production due to stoichiometric effects of light/nutrient balance. *Ecology* 83: 619-627.

NAKANO, Shigeru 中野 繁十

Miyake, Y.; Nakano, S. (2002) Effects of substratum stability on diversity of stream invertebrates during baseflow at two spatial scales. *Freshwater Biology* 47: 219-230.

Murakami, M.; Nakano, S. (2002) Indirect effect of aquatic insect emergence on a terrestrial insect population through predation by birds. *Ecology Letters* 5: 333-337.

Maekawa, K.; Nakano, S. (2002) Latitudinal trends in adult body size of Dolly Varden, with special reference to the food availability hypothesis. *Population Ecology* 44: 17-22.

Taniguchi, Y.; Fausch, K.D. and Nakano, S. (2002) Size-structured interactions between native and introduced species: can intraguild predation facilitate invasion by stream salmonids? *Biological Invasions* 4: 223-233.

下田和孝; 中野繁, 山本祥一郎 (2002) ダム建設による遡河回遊型アメマスの陸封化. 魚類学雑誌 49: 25-32.

NARITA, Tetsuya 成田哲也

Kawabata, K.; Narita, T., Nagoshi, M. & Nishino, M. (2002) Stomach contents of the landlocked dwarf ayu in Lake Biwa, Japan. *Limnology* 3: 135-142.

OHGUSHI, Takayuki 大串隆之

Kagata, H.; Ohgushi, T. (2002) Clutch size adjustment of a leaf-mining moth in response to resource availability. *Annals of the Entomological Society of America* 95: 213-217.

Craig, T.P.; Ohgushi, T. (2002) Preference and performance are correlated in the spittlebug, *Aphrophora pectoralis* (Homoptera: Cercopoidea) on four species of willows. *Ecological Entomology* 27: 529-540.

Kagata, H.; Ohgushi, T. (2002) Oviposition stimuli for host plant recognition and clutch size determination in a leaf-mining moth. *Ecological Entomology* 27: 622-625.

Nozawa, A.; Ohgushi, T. (2002) Life-history and oviposition preference of the willow spittlebug *Aphrophora pectoralis* (Homoptera: Aphrophoridae). *Entomological Science* 5: 203-207.

Nozawa, A.; Ohgushi, T. (2002) How does spittlebug oviposition affect shoot growth and bud production in two willow species? *Ecological Research* 17: 535-543.

Nozawa, A.; Ohgushi, T. (2002) Shoot characteristics affect oviposition preference of the willow spittlebug *Aphrophora pectoralis* (Homoptera: Aphrophoridae). *Annals of the Entomological Society of America* 95: 552-557.

Fukui, A.; Murakami, M., Konno, K., Nakamura, M. & Ohgushi, T. (2002) A leaf-rolling caterpillar improves leaf quality. *Entomological Science* 5: 263-266.

Kagata, H.; Ohgushi, T. (2002) Effects of multiple oviposition on clutch size in a leaf-mining moth, *Paraleucoptera sinuella* (Lepidoptera: Lyonetiidae). *Entomological Science* 5: 407-410.

Nozawa, A.; Ohgushi, T. (2002) Indirect effects mediated by compensatory shoot growth on subsequent generations of a willow spittlebug. *Population Ecology* 44: 235-239.

SHIMIZU, Isamu 清水 勇

Fujita, A.; Minamoto, T., Shimizu, I. and Abe, T. (2002) Molecular cloning of lysozyme-encoding cDNAs expressed in the salivary gland of a wood-feeding termite, *Reticulitermes speratus*. *Insect Biochem. Mol. Biol.* 32: 1615-1624.

Shimizu, I.; Sakamoto, K. and Iwasa, T. (2002) Photoperiodic and circadian photoreception in the silkworm, *Bombyx mori*. *J. Photosci.* 9: 17-20.

Minamoto, T.; Shimizu, I. (2002) Studies of opsin genes in a smelt fish, Ayu (*Plecoglossus altivelis*). *J. Photosci.* 9: 269-271.

Masumoto, T.; Shimizu, I. and Konishi, K. (2002) The first record of parasitism on *Neoscona scyl-*

loides (Araneae, Araneidae) by *Eriostethus rufus* (Hymenoptera: Ichneumonidae). *Acta Arachnologica* 51: 5-6.

Shimizu, I. (2002) Maintenance of the biodiversity by biological clock: circadian rhythm and period gene expression in *Apis cerana*. In: Report of the MEXT Creative Basic Research 09NP1501: An integrated study on biodiversity conservation under global change and bioinventory management system (FY 1997-2001). (edited by DIVER) pp. 240-250.

Minamoto, T.; Shimizu, I. (2002) A novel isoform of vertebrate ancient (VA) opsin in a smelt fish, *Plecoglossus altivelis*. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 290: 280-286.

Minamoto, T.; Shimizu, I. (2002) Phylogenetic relationship among osmerid and salangid fish inferred from mitochondrial cytochrome b gene sequences. *Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University (series Biology)* 18: 1-13.

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

Sugimoto, A.; Yanagisawa, N., Naito, D., Fujita, N. and Maximov, C. (2002) Importance of permafrost as a source of water for plants in East Siberian Taiga. *Ecol. Res.* 17: 493-503.

Sakai, Y.; Murase, J., Sugimoto, A., Okubo, K. and Nakayama, E. (2002) Resuspension of bottom sediment by an internal wave in Lake Biwa. *Lake and Reservoirs: Research and Management* 7: 339-344.

壁谷直記; 大手信人, 杉本敦子, 吉川賢, 王林和 (2002) 中国毛烏素沙地における地下水のCl-, 酸素・水素安定同位体比の水平分布に地表面状態が及ぼす影響. *水文・水資源学会誌* 15: 13-22.

TAKABAYASHI, Junji 高林純示

Fukushima, J.; Kainoh, Y., Honda, H. and Takabayashi, J. (2002) Learning herbivore-induced and unspecific plant volatiles by a parasitoid *Cotesia kariyai*. *Journal of Chemical Ecology* 28: 563-567.

Henneman, M.L.; Dyyreson, E.G., Takabayashi, J. and Raguso, R.A. (2002) Response of walnut olfactory and visual cues by the parasitic wasps *Diachasma juglandis* (Braconidae). *Journal of Chemical Ecology* 28: 2221-2244.

Shiojiri, K.; Takabayashi, J., Yano, S. and Takafuji, A. (2002) Oviposition preference by herbivores is affected by tritrophic interaction networks. *Ecology Letters* 5: 1-7.

Arimura, G.; Ozawa, R., Horiuchi, J., Nishioka, T. and Takabayashi, J. (2002) Herbivore-induced volatiles induce the emission of ethylene in neighboring lima bean plants. *The Plant Journal* 29: 87-98.

Shimoda, T.; Ozawa, R., Arimura, G., Takabayashi, J. and Nishioka, T. (2002) Olfactory responses of two specialist insect predators of spider mites toward plant volatiles from lima bean leaves

induced by jasmonic acid and/or methyl salicylate. *Applied Entomology and Zoology* 37: 535-541.

塩尻かおり; 前田太郎, 有村源一郎, 小澤理香, 下田武志, 高林純示 (2002) 植物 - 植食者 - 天敵相互作用系における植物情報化学物質の機能. *日本応用動物昆虫学会誌* 46: 117-133.

有村源一郎; 小澤理香, 高林純示 (2002) 自然界において生物間ネットワークを媒介する植物の香り. *Aroma Research* 3: 2-10.

高林純示; 塩尻かおり, 小澤理香, 有村源一郎 (2002) 植物揮発性成分による生物間情報伝達. *植物化学調節* 37: 166-177.

TAKAMI, Yasuoki 高見泰興

Takami, Y. (2002) Mating behavior, insemination and sperm transfer in the ground beetle *Carabus insulicola*. *Zoological Science* 19: 1067-1073.

曾田貞滋; 高見泰興, 久保田耕平, 石川良輔 (2002) オサムシ類の体サイズの地理的変異: 気候適応と種間相互作用がもたらすパターン. *Japanese Journal of Entomology (New Series)* 5: 88-97.

URABE, Jotaro 占部城太郎

Urabe, J.; Kyle, M., Makino, W., Yoshida, T., Andersen, T. and Elser, J.J. (2002) Reduced light increases herbivore production due to stoichiometric effects of light: nutrient balance. *Ecology* 83: 619-627.

Makino, W.; Urabe, J., Elser, J.J. and Yoshimizu, C. (2002) Evidence of phosphorus-limited individual and population growth of *Daphnia* in a Canadian Shield lake. *Oikos* 96: 197-205.

Urabe, J.; Elser, J.J., Kyle, M., Sekino, T. and Kawabata, Z. (2002) Herbivorous animals can mitigate unfavourable ratios of energy and material supplies by enhancing nutrient recycling. *Ecology Letters* 5: 177-185.

Gurung, T.B.; Urabe, J., Nozaki, K., Yoshimizu, C. and Nakanishi, M. (2002) Bacterioplankton production in a water column of Lake Biwa. *Lakes and Reservoirs* 7: 317-323.

Yoshimizu, C.; Urabe, J. (2002) Role of *Daphnia* in decomposition of organic matter in the surface layer of Lake Biwa. *Lakes and Reservoirs* 7: 325-330.

Ishikawa, T.; Urabe, J. (2002) Population dynamics and production of *Jesogammarus annandalei*, an endemic amphipod, in Lake Biwa, Japan. *Freshwater Biology* 47: 1935-1943.

Flöder, S.; Urabe, J. and Kawabata, Z. (2002) The influence of fluctuating light intensities on species composition and diversity of natural phytoplankton communities. *Oecologia* 133: 395-401.

Kagami, M.; Yoshida, T., Gurung, T.B. and Urabe, J. (2002) Direct and indirect effects of zooplankton on algal composition in in situ grazing experiments. *Oecologia* 133: 356-363.

- Elser, J.J.; Frost, P., Kyle, M.M., Urabe, J. and Andersen, T. (2002) Effects of light and nutrients on plankton stoichiometry and biomass in a P-limited lake. *Hydrobiologia* 481: 101-102.
- Urabe, J.; Makino, W., Hayakawa, K. and Elser, J.J. (2002) Food quality determinants for *Daphnia* growth in P-limited lakes. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 28: 1089-1094.
- Kagami, M.; Urabe, J. (2002) Mortality of the planktonic desmid, *Staurastrum dorsidentiferum*, due to interplay of fungal parasitism and low light conditions. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 28: 1001-1005.
- Yoshimizu, C.; Urabe, J., Sugiyama, M., Maruo, M., Nakayama, E. and Nakanishi, M. (2002) Carbon and phosphorus budgets in the pelagic area of Lake Biwa, the largest lake in Japan. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 28: 1409-1414.

YAMAMURA, Norio 山村則男_____

- Horiuchi, S.; Yamamura, N. (2002) Soldier production strategy in lower termites: from young instars or old instars?. *Journal of Theoretical Biology* 218: 195-205.
- Wakano, J.Y.; Kohmatsu, Y. & Yamamura, N. (2002) Evolutionary dynamics of frequency-dependent growth strategy in cannibalistic amphibians. *Evolutionary Ecology Research* 4: 719-736.

YOSHIMIZU, Chikage 由水千景_____

- Yoshimizu, C.; Urabe, J. (2002) Role of *Daphnia* in decomposition of organic matter in the surface layer of Lake Biwa. *Lakes and Reservoirs: Research and Management* 7: 325-330.
- Gurung, T.B.; Urabe, J., Nozaki, K., Yoshimizu, C. and Nakanishi, M. (2002) Bacterioplankton production in a water column of Lake Biwa. *Lakes and Reservoirs: Research and Management* 7: 317-323.
- Makino, W.; Urabe, J., Elser, J.J. and Yoshimizu, C. (2002) Evidence of phosphorus-limited individual and population growth of *Daphnia* in a Canadian Shield lake. *Oikos* 96: 197-205.
- Yoshimizu, C.; Urabe, J., Sugiyama, M., Maruo, M., Nakayama, E. and Nakanishi, M. (2002) Carbon and phosphorus budgets in the pelagic area of Lake Biwa, the largest lake in Japan. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 28: 1409-1414.

YUMA, Masahide 遊磨正秀_____

- Ambali, A.; Kabwazi, H., Malekano, L., Mwale, G., Chimwaza, D., Ingainga, J., Makimoto, N., Nakayama, S., Yuma, M. & Kada, Y. (2001) Relationship between local and scientific names of

fishes in Lake Malawi/Nyasa. Afr. Stud. Monogr. 22(3): 123-154.

Yonekura, R.; Nakai, K. & Yuma, M. (2002) Trophic polymorphism in introduced bluegill in Japan. Ecological Research 17: 49-58.

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

Kitamura, S.; Yumoto, T., Poonswad, P., Chuailua, P., Plongmai, K., Maruhashi, Y. & Noma, N. (2002) Interactions between fleshy fruits and frugivores in a tropical seasonal forest in Thailand. Oecologia 133: 559-572.

著書

HIGASHI, Masahiko 東 正彦†

東正彦 (全体監修・執筆(第2編3章3.4.4)) (2002) 流域管理のための総合調査マニュアル. (ed. by 日本学術振興会 未来開拓学術研究推進事業 複合領域 6 :「アジア地域の環境保全」和田プロジェクト (JSPS-RFTF97I00602)) 384pp. 京都大学生態学研究センター, 大津.

NAKANO, Shigeru 中野 繁†

中野繁 (2002) 川と森の生態学 - 中野繁論文集. 358pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

TAKABAYASHI, Junji 高林純示

高林純示 (2002) ボディガードを雇う植物 - 植物の間接防衛戦略 - . In: 植物が未来を拓く. pp. 256. 共立出版, 東京 .

YAMAMURA, Norio 山村則男

山村則男 (2002) 第 3 章. 生物の適応と進化 - 包括適応度と進化的安定戦略. In: 進化ゲームとその展開. (ed. by 佐伯胖; 亀田達也) 共立出版.

遊磨正秀; 游珮芸 (2002) アメニティ・文化的価値の評価. In: 流域管理のための総合調査マニュアル. (ed. by 日本学術振興会 未来開拓学術研究推進事業 複合領域 6 :「アジア地域の環境保全」和田プロジェクト) pp. 180-183. 京都大学生態学研究センター.

Nakai, K.; Timoshkin, O.A., Hartoto, D.I., Sulastri, Doi, A., Iwakuma, T., Melnik, N.G., Yuma, M. & Nakanishi, M. (2002) Freshwater ecosystems. In: Biodiversity Research Methods: IBOY in Western Pacific and Asia. (ed. by Nakashizuka, T.; Stork, N.) pp. 111-161. Kyoto Univ. Press, Kyoto and Trans Pacific Press, Victoria.

その他

KAWABATA, Zen'ichiro 川端善一郎

Kawabata, Z. (2002) Special Issue: Food web dynamics in spatial heterogeneity under multiple disturbances. *Ecological Research* 17(2): 133.

Kawabata, Z. (2002) Symbiotron for the experimental studies on biodiversity. In: Report of the MEXT Creative Basic Research 09NP1501, An Integrated Study on Biodiversity Conservation under Global Change and Bioinventory Management System (FY 1997-2001). pp. 37-45. DIVER.

Kawabata, Z. (2002) Species diversity on mitigate phyto-and zooplankton biomass changes. In: Report of the MEXT Creative Basic Research 09NP1501, An Integrated Study on Biodiversity Conservation under Global Change and Bioinventory Management System (FY 1997-2001). pp. 199-207. DIVER.

KONDOH, Michio 近藤倫生

近藤倫生 (2002) 生物多様性パターンはどのようにして生み出されるのか? 中規模攪乱仮説と生産性仮説を統合する. *生物科学* 53: 195-203.

NAGATA, Toshi 永田 俊

永田俊 (2002) 海洋における「溶存有機物 - 微生物連鎖系」研究の新しい展開. *日本プランクトン学会報* 49(1): 15-20.

永田俊 (2002) 溶存有機物の連鎖系. *月刊海洋* 号外29: 120-125.

NARITA, Tetsuya 成田哲也

成田哲也 (2002) 安定同位体による琵琶湖深底部底生動物の食物網解析の試み. (シンポジウム記録) 陸水学雑誌 63: 157-159.

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

Sugimoto, A. (2002) Water circulation in regional scale. In: Hydrogen and Oxygen isotopes in hydrology. -The textbook for the eleventh IHP training course in 2001-. pp. 43-55. Nogoya University and UNESCO.

Sugimoto, A. (2002) Tracing of water on Eurasian Continent using stable isotopes of water. Proceedings of the 2nd GAME-MAGS joint international workshop. pp. 52-57.

杉本敦子; 一柳錦平 (2002) 水循環および気候システムの研究への同位体の利用 - IAEAの会議 (IWCMとICSYS) の報告 - . 天気 49: 419-422.

URABE, Jotaro 占部城太郎

熊谷道夫; 占部城太郎 (2002) モンゴルの草原と湖. 地理 47: 50-55.

YAMAMURA, Norio 山村則男

山村則男 (2002) オスとメスのゲーム: 配偶者警護・子の世話・種分化. 遺伝5月号 56(3): 56-60.

YUMA, Masahide 遊磨正秀

Yuma, M. (2002) La situacion de manejo de los recursos pesqueros en el Lago Biwa de Japon. Resumen de Exposiciones, Centro de Investigacion y desarrollo acuicola Boliviano CIDAB, La Paz - Bolivia, 2002. pp. 22-39.

遊磨正秀 (2002) ホタルに関する俳句の時代変遷. 全国ホタル研究会誌 35: 16-18 .

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

湯本貴和 (2002) 熱帯林の霊長類研究のためのハンドブック 2. 植生調査と植物標本の処理. 霊長類研究 18(3): 284-289.

竹ノ下祐二; 湯本貴和 (2002) 熱帯林の霊長類研究のためのハンドブック 3. 食物資源の評価
のための果実量と果期の調査. 霊長類研究 18(3): 290-294.

原著論文

FUJITA, Ai 藤田 愛_____

Fujita, A.; Abe, T. (2002) Amino acid concentration and distribution of lysozyme and protease activities in the guts of higher termites. *Physiological Entomology* 27(1): 76-78.

Fujita, A.; Minamoto, T., Shimizu, I. and Abe, T. (2002) Molecular cloning of lysozyme-encoding cDNAs expressed in the salivary gland of a wood-feeding termites, *Reticuletermes speratus*. *Insect Biochemistry and Molecular Biology* 32(12): 1615-1624.

HATADA, Aya 畑田 彩_____

Hatada, A.; Itioka, T., Yamaoka, R. and Itino, T. (2002) Carbon and nitrogen contents of food bodies in three myrmecophytic *Macaranga*: implications for antiherbivore defense mechanisms. *Journal of Plant Research* 115(3): 179-184.

ISHIKAWA, Toshiyuki 石川俊之_____

Ishikawa, T.; Urabe, J. (2002) Population dynamics and production of *Jesogammarus annandalei*, an endemic amphipod, in Lake Biwa, Japan. *Freshwater Biology* 47: 1935-1943.

IWATA, Tomoya 岩田智也_____

Takimoto, G.; Iwata, T. and Murakami, M. (2002) Seasonal subsidy stabilizes food web dynamics: balance in a heterogeneous landscape. *Ecological Research* 17: 433-439.

KITAMURA, Shumpei 北村俊平_____

Kitamura, S.; Yumoto, T., Poonswad, P., Chuailua, P., Plongmai, K., Maruhashi, T. and Noma, N. (2002) Interactions between fleshy fruits and frugivores in a tropical seasonal forest in Thailand. *Oecologia* 133: 559-572.

MIKI, Takeshi 三木 健

Miki, T.; Kondoh, M. (2002) Feedbacks between nutrient cycling and vegetation predict plant species coexistence and invasion. *Ecology Letters* 5: 624-633.

MINAMOTO, Toshifumi 源 利文

Minamoto, T.; Shimizu, I. (2002) Studies of opsin genes in a smelt fish, Ayu (*Plecoglossus altivelis*). *Journal of Photoscience* 92: 269-271.

Minamoto, T.; Shimizu, I. (2002) A novel isoform of vertebrate ancient (VA) opsin in a smelt fish, *Plecoglossus altivelis*. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 290: 280-286.

Fujita, A.; Minamoto, T., Shimizu, I. and Abe, T. (2002) Molecular cloning of lysozyme-encoding cDNAs expressed in the salivary gland of a wood-feeding termite, *Reticulitermes speratus*. *Insect Biochemistry and Molecular Biology* 32: 1615-1624.

TSUGEKI, Narumi 槻木玲美

槻木玲美; 吉川周作, 後藤敏一 (2002) 溜池堆積物に記録された過去200年間の水域環境変遷史 大阪府高槻市小寺池の例 . *第四紀研究* 41(3): 161-170.

HARAGUCHI, Akira 原口 昭

- 1) Haraguchi, A.; Kojima, H., Hasegawa, C., Takahashi, Y. and Iyobe, T. (2002) Decomposition of organic matter in peat soil in a minerotrophic mire. *European Journal of Soil Biology* 38(1): 89-95.
- 2) Haraguchi, A.; Yabe, K. (2002) Vertical and horizontal distribution of redox potential of soil in wetland forests in Lahei, Central Kalimantan, Indonesia. *TROPICS* 11(2): 91-100.

HATTORI, Akihisa 服部昭尚

- 1) Hattori, A. (2002) Small and large anemonefishes can coexist using the same patchy resources on a coral reef, before habitat destruction. *Journal of Animal Ecology* 71: 824-831.

IMAI, Ichiro 今井一郎

- 1) Kobayashi, S.; Kojima, N., Itakura, S., Imai, I., Matsuoka, K. (2001) Cyst morphology of a chain-forming unarmored dinoflagellate *Gyrodinium impudicum* Fraga et Bravo. *Phycol. Res.* 49: 61-65.
- 2) Kondo, R.; Imai, I. (2001) Polymerase chain reaction primers for highly selective detection of algicidal *Proteobacteria*. *Fisheries Sci.* 67: 364-366.
- 3) Imai, I.; Sunahara, T., Nishikawa, T., Hori, Y., Kondo, R., Hiroishi, S. (2001) Fluctuations of the red tide flagellates *Chattonella* spp. (Raphidophyceae) and the algicidal bacterium *Cytophaga* sp. in the Seto Inland Sea, Japan. *Mar. Biol.* 138: 1043-1049.
- 4) Maki, T.; Imai, I. (2001) Relationships between intracellular bacteria and the bivalve killer dinoflagellate *Heterocapsa circularisquama* (Dinophyceae). *Fisheries Sci.* 67: 794-803.
- 5) Maki, T.; Imai, I. (2001) Effects of harmful dinoflagellate *Heterocapsa circularisquama* cells on the growth of intracellular bacteria. *Microb. Environ.* 16: 234-239.
- 6) Nagai, S.; Imai, I. (2001) Relationships between *Coscinodiscus wailesii* and bacteria promoting its sperm formation in the coastal area, Japan. In: 16th International Diatom Symposium 1996. (ed. by Economou-Amilli, A.) pp. 213-223. University of Athens, Greece.
- 7) Naito, K.; Suzuki, M., Mito, S., Hasegawa, H., Imai, I., Sohrin, Y., Matsui, M. (2001) The pursuit of siderophore secreted by marine phytoplankton *Rhodomonas ovalis*. *Anal. Sci.* 17 (Supplement) : i817-i819.
- 8) 今井一郎 (2001) 沿岸海洋の富栄養化と赤潮の拡大. In: 海と環境. (ed. by 日本海洋学会) pp. 203-211. 講談社, 東京 .

- 9) 今井一郎 (2001) シャットネラ・アンティカ, マリーナ. 養殖 38(5): 140.
- 10) 今井一郎 (2001) ヘテロシグマ・アカシオ. 養殖 38(9): 140.
- 11) 今井一郎; 杉岡光, 西谷豪 (2001) 陸奥湾におけるディノフィシス属と微小プランクトンの動態, 海水中の微小プランクトン画分の毒性, 及び微小プランクトン培養株の毒性. 平成12年度二枚貝等貝毒安全対策事業報告書 pp. 1-15. 水産庁.
- 12) 今井一郎 (2001) 間接蛍光抗体法の検討とモニタリング. 平成12年度赤潮対策技術開発試験ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業 ヘテロカプサ赤潮等による被害防止対策試験報告書 pp. 36-51. 水産庁.
- 13) Nishitani, G.; Sugioka, H., Imai, I. (2002) Seasonal distribution of species of the toxic dinoflagellate genus *Dinophysis* in Maizuru Bay (Japan), with comments on their autofluorescence and attachment of picophytoplankton. Harmful Algae 1: 253-264.
- 14) 今井一郎; 吉永郁生 (2002) 赤潮の予防と駆除. In: 微生物利用の大展開. (ed. by 今中忠行; 加藤千明, 加藤暢夫, 倉根隆一郎, 西山徹, 矢木修身) pp. 881-888. エヌ・ティー・エス, 東京.
- 15) 今井一郎 (2002) 大型藻類と魚類の混合養殖による赤潮の発生予防. In: 有害有毒藻類ブルームの予防と駆除. (ed. by 広石伸互; 今井一郎, 石丸隆) pp. 19-29. 恒星社厚生閣, 東京.
- 16) Fukuyo, Y.; Imai, I., Kodama, M., Tamai, K. (2002) Red tides and other harmful algal blooms in Japan. In: Harmful Algal Blooms in the PICES Region of the North Pacific. (ed. by Taylor, F.J.R.; Trainer, V.L.) PICES Scientific Report 23. pp. 7-20. PICES, Canada.
- 17) 今井一郎; 西垣友和, 幡野真隆 (2002) *Cochlodinium polykrikoides*と殺藻細菌. 平成13年度八代海コックロディニウム赤潮緊急対策事業報告書 pp. 1-9. 水産庁.
- 18) 今井一郎; 白石智孝 (2002) ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマのモノクローナル抗体を利用したモニタリング技術の開発 (2) モノクローナル抗体を用いた間接蛍光抗体法によるヘテロカプサ現場個体群のモニタリング. 平成13年度赤潮対策技術開発試験ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業 ヘテロカプサ赤潮等による被害防止対策試験報告書 pp. 27-40. 水産庁.
- 19) Imai, I.; Fujimaru, D., Nishigaki, T. (2002) Co-culture of fish with macroalgae and associated bacteria: A possible mitigation strategy for noxious red tides in enclosed coastal sea. Fisheries Sci. 68 Suppl.: 493-496.
- 20) Hiroishi, S.; Nakai, R., Seto, H., Yoshida, T., Imai, I. (2002) Identification of *Heterocapsa circularisquama* by means of antibody. Fisheries Sci. 68 Suppl.: 627-628.

INUBUSHI, Kazuyuki 犬伏和之

- 1) Hoque, M.M.; Inubushi, K. and Yabashi, S. (2002) Nitrogen dynamics in paddy field under free-air CO₂ enrichment (FACE) examined by the ¹⁵N tracer technique. Technical Bulletin of Faculty of Horticulture, Chiba University 56: 65-75.
- 2) Furukawa, Y.; Inubushi, K. (2002) Suppression of methane emission from paddy soil by iron

materials and its feasibility to tropical peat soil. *Agroscentiae* 9: 36-52.

- 3) Li, X.; Inubushi, K. and Sakamoto, K. (2002) N₂O concentration in the Andisol profile and emissions to the atmosphere as influenced by the application of nitrogen fertilizers and manure. *Biology and Fertility of Soils* 35: 108-113.
- 4) Zaman, M.; Di, H.J., Sakamoto, K., Goto, S., Hayashi, H. and Inubushi, K. (2002) Effect of sewage sludge compost and chemical fertilizer applications on microbial biomass and N mineralization rates. *Soil Science and Plant Nutrition* 48: 195-201.

ITINO, Takao 市野隆雄

- 1) 市野隆雄 (2002) アリと植物 - 共生の自然史. In: ハチとアリの自然史. (ed. by 前田泰生; 伊藤文紀, 杉浦直人) pp. 258-277. 北海道大学図書刊行会, 札幌 .
- 2) Murase, K.; Itioka, T., Inui, Y., Itino, T. (2002) Species specificity in settling-plant selection by foundress ant queens in *Macaranga-Crematogaster* myrmecophytism in a Bornean dipterocarp forest. *Journal of Ethology* 20: 19-24.
- 3) Hatada, A.; Itioka, T., Yamaoka, R., Itino, T. (2002) Carbon and nitrogen contents of food bodies in three myrmecophytic species of *Macaranga*: implications for antiherbivore defense mechanisms. *Journal of Plant Research* 115: 179-184.

ITIOKA, Takao 市岡孝朗

- 1) Murase, K.; Itioka, T., Inui, Y. and Itino, T. (2002) Species specificity in settling-plant selection by foundress ant queens in *Macaranga-Crematogaster* myrmecophytism in a Bornean dipterocarp forest. *Journal of Ethology* 20(1): 19-24.
- 2) Nomura, M.; Itioka, T. (2002) Effects of synthesized tannin on the growth and survival of a generalist herbivorous insect, the common cutworm, *Spodoptera litura* (Lepidoptera: Noctuidae). *Applied Entomology and Zoology* 37(2): 285-289.
- 3) Hatada, A.; Itioka, T., Yamaoka, R. and Itino, T. (2002) Carbon and nitrogen content of food bodies in three myrmecophytic species of *Macaranga*. *Journal of Plant Research* 115: 179-184.
- 4) 市岡孝朗 (2002) 地上40mでの昆虫調査: 熱帯低地フタバガキ林の林冠昆虫の生態. *昆虫と自然* 37(8): 16-19.

ITO, Akihide 伊藤彰英

- 1) Xu, J.; Wang, Y., Xian, Y., Li, H., Jin, L., Tanaka, K., Haraguchi, H., Itoh, A. (2002) Simultaneous determination of oxalate, thiosulfate, and thiocyanate in urine by ion-exclusion

chromatography with electrochemical detection. *Chromatographia* 56(7-8): 449-453.

- 2) 伊藤彰英; 星野益輝, 山田浩, 朱彦北, 原口紘き (2002) 沿岸海水・河川水中ガドリニウムの濃度異常. *Biomed. Res. Trace Elements* 13(4): 228-229.
- 3) 伊藤彰英 (2002) 5.2 全元素分析・スペシエーションで未来環境を予測しよう. In: はかってなんぼ 環境編. (ed. by 日本分析化学会近畿支部) pp. 153-164. 丸善.

KAMEDA, Kayoko 亀田佳代子

- 1) 亀田佳代子; 松原健司, 水谷広, 山田佳裕 (2002) 日本におけるカワウの食性と採食場所選択. *日本鳥学会誌* 51(1): 12-28.
- 2) 高橋鉄美; 亀田佳代子, 川村めぐみ (2002) 尾鰭骨格による琵琶湖産アユおよびワカサギの種判別と体長の推定. *日本水産学会誌* 68(4): 576-578.
- 3) Osono, T.; Hobara, S., Fujiwara, S., Koba, K. and Kameda, K. (2002) Abundance, diversity, and species composition of fungal communities in a temperate forest affected by excreta of the Great Cormorant *Phalacrocorax carbo*. *Soil Biology & Biochemistry* 34: 1537-1547.
- 4) 亀田佳代子; 保原達, 大園享司, 木庭啓介 (2002) カワウによる水域から陸域への物質輸送とその影響. *月刊海洋* 34(6): 442-448.
- 5) 亀田佳代子 (2002) 生態系の中でのカワウの役割. *Birder (バーダー)* 16(6): 24-27.
- 6) 亀田佳代子 (2002) 水辺におけるカワウのネットワーク - 水域から森への物質輸送が意味するもの -. *エコソフィア* 10: 20-27.
- 7) 斉藤友則; 木庭啓介, 酒井徹朗, 亀田佳代子, 吉岡崇仁 (2002) コンジョイント分析を用いた野生動物問題に対する仮想的対策事前評価 - 滋賀県琵琶湖におけるカワウ問題を事例として -. *日本評価研究* 2(2): 79-90.

KANEKO, Nobuhiro 金子信博

- 1) 伊藤雅道; 美馬純一, 吉田利男, 橋本みのり, 豊田鮎, 金子信博, 富田大介, 内田浩二 (2001) キシャヤステハヶ岳～霧ヶ峰集団の2000年の分布及び群遊状況について(速報). *Edaphologia* 68: 39-42.
- 2) Yokota, H.; Kaneko, N. (2002) Naidid worms (Oligochaeta, Naididae) in paddy soils as affected by the application of legume mulch and/or tillage practice. *Biology and Fertility of Soils* 35: 122-127.
- 3) Kaneda, S.; Kaneko, N. (2002) Influence of soil quality on the growth of *Folsomia candida* (Willem)(Collembola). *Pedobiologia* 46: 428-439.
- 4) 伊藤雅道; 美馬純一, 藤川粹至, 吉田利男, 金子信博 (2002) キシャヤステハヶ岳～霧ヶ峰集団と同所的に存在する1令遅れ集団の発見. *Edaphologia* 70: 37-39.

- 1015) 川那部浩哉 (2002) 1960年を中心とする10年間のこと. 科学 72: 1 .
- 1016) 川那部浩哉; 井田由美 (2002) 「地域丸ごと博物館」を目指して. 三洋化成ニュース 410: 7-12 .
- 1017) 秋篠宮文仁; 秋道智彌, 川那部浩哉 (2002) ナマズの魅力. うみんど 21: 2-3 .
- 1018) 川那部浩哉 (2002) 2001年読書アンケート. みすず 490: 29 .
- 1019) 川那部浩哉 (2002) 「ひと言」. WWFジャパン21世紀自然保護ビジョンと「ひと言」の紹介 p. 6.
- 1020) 川那部浩哉 (2002) 選評:「環境の世紀」とくらしかた. Challenge 21 ! 「あなたの提言」 5: 8. 日本育英会, 東京.
- 1021) 高橋裕; 梅棹忠夫, イーデス・ハンソン, 川那部浩哉, 鈴木藤一郎, 堀井良殷, 織田峰彦 (2002) 関西水フォーラム: 自分の飲み水どこから? 川に向かった街づくり. 読売新聞 2002/3/22 .
- 1022) 川那部浩哉 (2002) 生命文化複合体としての琵琶湖～それをいかに取り戻すか: 全体会議 I における基調講演 3 . 第 9 回世界湖沼会議開催報告書 pp. 186-192. 第 9 回世界湖沼会議実行委員会, 大津.
- 1023) 川那部浩哉 (2002) 全体報告: 全体会議 II における総括報告. 第 9 回世界湖沼会議開催報告書 pp. 203-206. 第 9 回世界湖沼会議実行委員会, 大津.
- 1024) 染川香澄; 松岡治子, 青木伸子, 川那部浩哉 (2002) 展示を考える. うみんど 22: 2-3.
- 1025) 川那部浩哉 (2002) はじめに. 琵琶湖博物館資料目録 8: 1.
- 1026) 川那部浩哉 (2002) 世界湖沼会議を終えて - 湖沼の保全・管理の今後を考える. 資源環境対策 38: 559-562.
- 1027) Kawanabe, H. (ed.) (2002) An Integrated Study on Biodiversity Conservatiuon under Global Change and Bioinventory Management System: Report of the MEXT Creative Basic Research 09NP1501. xiii+418 pp. Center for Ecological Research, Kyoto University, Otsu.
- 1028) Kawanabe, H.; Toda, M.J. and Nagata, T. (2002) Preface. An Integrated Study on Biodiversity Conservatiuon under Global Change and Bioinventory Management System: Report of the MEXT Creative Basic Research 09NP1501 (ed. by Kawanabe, H.) pp. v-viii.
- 1029) 川那部浩哉 (2002) 宍道湖・中海40年間の魚類相の変遷: 地域のミュージアムが継続調査研究していくことの意味と意義. 12 pp, 1 pl. 島根県立宍道湖自然館・ホシザキグリーン財団, 平田.
- 1030) 川那部浩哉 (2002) はじめに. 琵琶湖博物館資料目録 6: 1.
- 1031) 村田純一; 川那部浩哉ほか (2002) 全体討論. 第19回 '01 比叡会議報告書「人生における運・不運～偶然と必然～」 (ed. by 比叡会議事務局) pp. 135-164. 日本アイ・ピー・エム株式会社関西支社, 大阪.
- 1032) 川那部浩哉 (2002) 「行方不明」の楽しみ. 京大広報 568: 1266.
- 1033) 川那部浩哉 (2002) 分類学と生態学の協同. 日本分類学会連合ニュース 1: 6-7 .
- 1034) 川那部浩哉 (2002) ごあいさつ. 琵琶湖博物館第10回企画展展示解説書 中世のむら探検 - 近江の暮らしのルーツを求めて - (ed. by 橋本道範) pp. 2-3. 琵琶湖博物館, 草津.

- 1035) 川那部浩哉 (2002) はじめに. わたしたちの湖沼会議 - 市民・NGOの目に映った湖沼会議 - (ed. by 湖沼会議市民報告書編集委員会) pp. 4-5. サンライズ出版, 彦根.
- 1036) 安井四加三; 三品巖, 真田昇, 川那部浩哉 (2002) <湖辺のむら>の資源利用 - 守山市赤野井町の暮らし. うみんど 23: 4-5 .
- 1037) 川那部浩哉; 宮田親平 (2002) 公共事業とコミュニケーション - 川那部浩哉先生に対するヒヤリング記録 - . 2+16 pp. (財)水資源協会, 東京.
- 1038) 川那部浩哉 (2002) 魚の目で, 琵琶湖を早急に捉え直そう. 明日の淡海 7: 2.
- 1039) 川那部浩哉 (2002) 本の紹介: 生態系を蘇らせる. 野生生物保全論研究会会報 2: 35.
- 1040) 川那部浩哉 (2002) はしがき. 文部科学省親しむ博物館づくり委嘱事業「よみがえれ! 写真たち」実施報告書 (ed. by 琵琶湖博物館「親しむ博物館づくり事業」実行委員会) p. i. 琵琶湖博物館, 草津.
- 1041) 川那部浩哉 (2002) 岩井保著『旬の魚はなぜうまい』: 最新知識と古典の味が調和. 産経新聞 2002/11/4.
- 1042) 川那部浩哉 (2002) 生物多様性科学とはなにか. 生物多様性の世界:人と自然の共生というパラダイムを目指して:予稿集 (ed. by 生物多様性の世界事務局) pp. 6-7. 中日本装備, 名古屋.
- 1043) 川那部浩哉 (2002) 自然保護の視点から見た琵琶湖の現状と課題. KNCF NEWS (日本経団連自然保護協議会だより) 24: 7-8. 日本経団連自然保護協議会, 東京.
- 1044) 森山真弓; 千宗室, 川那部浩哉 (2002) 開会式挨拶. 千年の願い・千年の誓い - 世界女性文化会議・京都2001の記録 - (ed. by 日本ジェンダー学会・世界女性文化会議・京都2001の記録編集委員会) pp. 8-11. 日本ジェンダー学会, 神戸.
- 1045) 脇田晴子; 川那部浩哉 (2002) 近江中世の「むら」を探る. うみんど 24: 2-3 .
- 1046) 川那部浩哉 (編) (2002) 外部評価 (概要). 外部評価報告書 pp. 7-15. 国立科学博物館, 東京.

KOHMATSU, Yukihiro 神松幸弘

- 1) Wakano, J.Y.; Kohmatsu, Y. and Yamamura, N. (2002) Evolutionary dynamics of frequency-dependent growth strategy in cannibalistic amphibians. *Evolutionary Ecology Research* 4: 719-736.

KONNO, Yasuo 紺野康夫

- 1) Konno, Y. (2002) Effects of competitive exclusion by the dominant *Sasa tsuboiana* on associate species. *Vegetation Science* 19: 1-10.
- 2) 楠田尚史; 小野山敬一, 紺野康夫 (訳) (2002) コンピュータで学ぶ応用個体群生態学 - 希少生物の保全をめざして - . (H・レシット・アクチャカヤ; マーク・A・バークマン, レフ・R・ギンズバーク (著)) 文一総合出版.

- 1) 松原健司 (2002) 鳥類の食性解析と安定同位体測定法. In: これからの鳥類学. (ed. by 山岸哲; 樋口広芳) pp. 264-286. 裳華房, 東京.
- 2) 亀田佳代子; 松原健司, 水谷広, 山田佳裕 (2002) 日本におけるカワウの食性と採食場所選択. 日本鳥学会誌 51(1): 12-28.

- 1) Minoura, K.; Imamura, F., Sugawara, D., Kono, Y. and Iwashita, T. (2002) The 869 Jogan tsunami deposit and recurrence interval of large-scale tsunami on the Pacific coast of northeast Japan. *Jour. Nat. Dis. Sci.* 23: 83-88.
- 2) Takei, T.; Minoura, K., Tsukawaki, S. and Nakamura, T. (2002) Intrusion of a branch of the Oyashio Current into the Japan Sea during the Holocene. *Paleoceanography* 17: 335-349.
- 3) Minoura, K.; Imamura, F., Kuran, U., Nakamura, T., Papadopoulos, G.A., Takahashi, T. and Yalciner, A.C. (2002) Tsunami hazards associated with explosion-collapse processes of a dome complex on Minoan Thera. In: *Science Series IV Earth and Environmental Sciences: Submarine Landslides and Tsunamis.* (ed. by Yalciner, A.C. et al) pp. 229-236. Kluwer Academic Publishers, Amsterdam.
- 4) 菅原大助; 箕浦幸治, 今村文彦 (2002) 西暦869年貞観津波による堆積物に関する現地調査. *月刊海洋* 28: 110-117.
- 5) Kono, Y.; Takada, S., Imamura, F. and Minoura, K. (2002) Numerical analysis on Jogan tsunami by using fault model in consideration of the origin of Miyagi-ken-oki earthquake. *Proceedings of the 5th International Conference on Hydro-Science & -Engineering.* CD-ROM Warsaw, Poland September 18-21, 2002 in Warsaw, Poland.
- 6) 長谷義隆; 河室公康, 三好教夫, 高原光, 箕浦幸治, 志知幸治, 尾田武文, 片岡裕子, 牧武志, 河合崇欣 (2002) ロシア, バイカル湖湖底堆積物の花粉分析に基づく過去1,200万年間の植生変遷. *地球環境 (社団法人国際環境研究協会誌)* 7(1): 1-14 .

- 1) 飯山直樹; 鎌田磨人, 中川恵美子, 中越信和 (2002) 棚田畦畔の構造および草刈りの差異が植物群落に及ぼす影響. *ランドスケープ研究* 65(5): 579-584.
- 2) 井上尚子; 林良之, 中越信和 (2002) 温井ダム湛水域より移植したマダイオウの栽培. *高原の自然史* 7: 27-33.
- 3) 亀井幹夫; 中越信和 (2002) 天然記念物制度による植物保全の効果. *ランドスケープ研究* 65(5): 427-430.
- 4) Kamei, M.; Nakagoshi, N. (2002) Assessing integrity in cultural landscape: a case study from

- Japan. In: Proceeding of the Conference on Space Application for Heritage Conservation. (ed. by B. Warmbein) P3: 1-4. ESA Publication Division, Noordwijk.
- 5) Kameyama, Y.; Isagi, Y., Nakagoshi, N. (2002) Relatedness structure in *Rhododendron metternichii* var. *hondoense* revealed by microsatellite analysis. *Molecular Ecology* 11: 519-527.
 - 6) 菊池亜希良; 恩田裕一, 中越信和 (2002) 湧水湿地の植生配分に及ぼす地下水流動の影響. *植生学会誌* 19: 95-111.
 - 7) Kim, J.-E.; Hong, S.-K., Nakagoshi, N. (2002) Landscape ecology on vegetation types and land use systems of agro-forested regions in Korea. *Hikobia* 13: 693-703.
 - 8) Kohri, M.; Kamada, M., Yuuki, T., Okabe, T., Nakagoshi, N. (2002) Expansion of *Elaeagnus umbellata* on a gravel bar in the Naka River, Shikoku, Japan. *Plant Species Biology* 17: 25-36.
 - 9) Kondo, T.; Nakagoshi, N. (2002) Effect of forest structure and connectivity on bird distribution in a riparian landscape. *Phytocoenologia* 32: 665-676.
 - 10) Luchman Hakim; Nakagoshi, N., Isagi, Y. (2002) Conservation ecology of *Gigantochloa mang-gong*: an endemic bamboo at Java, Indonesia. *Journal of International Development and Cooperation* 9: 1-16.
 - 11) Nagashima, K.; Sands, R., Whyte, A.G.D., Bilek, E.M., Nakagoshi, N. (2002) Regional landscape change as a consequence of plantation forestry expansion: an example in the Nelson region, New Zealand. *Forest Ecology and Management* 163: 245-261.
 - 12) 中越信和 (監修) (2002) 緑のまちと回廊づくり グリーンマネジメント入門 (中国地方版). 168 pp. (社)中国建設弘済会, 広島.
 - 13) 中越信和 (2002) 瀬戸内海の島嶼景観. *瀬戸内海* 29: 36-41.
 - 14) 中越信和 (2002) 持続可能な社会と環境づくり. *都市緑化技術* 47: 6-10.
 - 15) Nakagoshi, N.; Kondo, T. (2002) Ecological land evaluation for nature redevelopment in river areas. *Landscape Ecology* 17(Suppl. 1): 83-93.
 - 16) Petrov, L.O.; Nakagoshi, N. (2002) Atmospheric environments and causes of pollution in Iasi City, Romania. *Japanese Journal of Biometeorology* 39: 47-55.
 - 17) Shirakawa, K.; Nakagoshi, N. (2002) Groundwater dynamics and changes in vegetation distribution at Chojabara Mire, southwestern Japan. *Hikobia* 13: 705-712.
 - 18) Touyama, Y.; Yamamoto, T., Nakagoshi, N. (2002) Are ants useful bioindicator? -the relationship between ant species richness and soil macrofaunal richness, in Hiroshima Prefecture. *Edaphologia* 70: 33-36.

NOZAKI, Kentaro 野崎健太郎

- 1) Nozaki, K.; Morino, H., Munehara, H., Sideleva, V.G., Nakai, K., Yamauchi, M., Kozhova, O.M. and Nakanishi, M. (2002) Composition, biomass and photosynthetic activity of the benthic algal communities in a littoral zone of Lake Baikal in summer. *Limnology* 3: 175-180.
- 2) 野崎健太郎; 三橋弘宗, 岸大弼, 三宅洋, 河口洋一, 谷口義則 (2002) 知床半島西岸河川の水質環境. *知床博物館研究報告* 23: 31-36.

- 3) 野崎健太郎 (2002) 湖沼沿岸帯における基礎生産の特性. 陸水学雑誌 63: 225-231.
- 4) Gurung, T.B.; Urabe, J., Nozaki, K., Yoshimizu, C. and Nakanishi, M. (2002) Bacterioplankton production in a water column of Lake Biwa. Lakes & Reservoir: Research and Management 7: 317-323.
- 5) Miyake, H.; Nozaki, K. and Mitamura, O. (2002) Chemical characteristics of small lagoons "Naiko" connected with Lake Biwa. Verh. Internat. Verein. Limnol. 28: 1727-1732.
- 6) Nozaki, K.; Mitamura, O. (2002) Seasonal change in a filamentous green-algal community in the littoral zone of Lake Biwa. Verh. Internat. Verein. Limnol. 28: 1739-1744.

OCHI, Haruki 越智晴基

- 1) Ochi, H.; Rossiter, A. and Yanagisawa, Y. (2002) Paternal mouthbrooding bagrid catfishes in Lake Tanganyika. Ichthyological Research 49: 270-273.

OHTAKA, Akifumi 大高明史

- 1) 高橋友宏; 大高明史 (2002) 白神山地・小峰川の底生動物相. 青森自然誌研究 7: 87-94.
- 2) 倉西良一; 市田忠夫, 清水高男, 大高明史, 加藤秀男 (2002) 青森県におけるトビケラ目成虫の採集記録. ナガレトビケラ科, トビケラ科, エグリトビケラ科. 青森自然誌研究 7: 97-102.
- 3) 大高明史; 伊藤富子 (2002) 支笏湖および洞爺湖深底部における貧毛類を中心とした底生動物群集の概要. 陸水生物学報 17: 9-16.
- 4) 伊藤富子; 大高明史, 福原晴夫, 伊藤哲也, Jihua Wu, 三上英敏, 石川靖, 五十嵐聖貴, 永洞真一郎, 高野敬志, 安富亮平 (2002) 北海道釧路湿原, 塘路湖とシラルト口湖の底生動物. 陸水生物学報 17: 17-24.
- 5) Gelder, S.R.; Ohtaka, A. (2002) A review of the orietnal branchiobdellidans (Annelida: Clitellata) with reference to the rediscovered slide collection of Prof. Hideji Yamaguchi. Species Diversity 7: 333-344.
- 6) Ohtaka, A.; Saito, T., Kakizaki, T., Ogasawara, S., Ohtomo, C. and Nagasawa, K. (2002) Seasonal and regional occurrence of *Acanthocephalus* sp. (Acanthocephala: Echinorhynchidae) in fishes and isopods (*Asellus hilgendorfi*) in a lake system, northern Japan. Limnology 3: 143-150.

OKUDA, Noboru 奥田 昇

- 1) Okuda, N.; Miyazaki, M. and Yanagisawa, Y. (2002) Sexual difference in buccal morphology of the paternal mouthbrooding cardinalfish *Apogon doederleini*. Zool. Sci. 19: 801-807.

- 2) Okuda, N.; Ito, S. and Iwao, H. (2002) A marking technique for live fish eggs and larvae. Ichthyol. Res. 49: 367-370.
- 3) Okuda, N.; Ito, S. and Iwao, H. (2002) Female spawning strategy in *Rhinogobius* sp. OR: how do females deposit their eggs in the nest? Ichthyol. Res. 49: 371-379.
- 4) Kondoh, M.; Okuda, N. (2002) Mate availability influences filial cannibalism in fish with paternal care. Anim. Behav. 63: 227-233.
- 5) Takeyama, T.; Okuda, N. and Yanagisawa, Y. (2002) Seasonal pattern of filial cannibalism by *Apogon doederleini* mouthbrooding males. J. Fish Biol. 61: 633-644.

SAKAMOTO, Kazunori 坂本一憲

- 1) Zaman, M.; Di, H.J., Sakamoto, K., Goto, S., Hayashi, H. and Inubushi, K. (2002) Effects of sewage sludge compost and chemical fertilizer applications on microbial biomass and N mineralization rates. Soil Science and Plant Nutrition 48: 195-201.
- 2) Li, X.; Inubushi, K. and Sakamoto, K. (2002) Nitrous oxide concentrations in an Andisol profile and emissions to the atmosphere as influenced by the application of nitrogen fertilizers and manure. Biology and Fertility of Soils 35: 108-113.
- 3) 犬伏和之; 平館俊太郎, 櫻井克年, 川東正幸, 馬建峰, 谷昌幸, 岡崎正規, 林健太郎, 坂本一憲, 三枝正彦 (2002) 土壌酸性をめぐる研究の進展と今後の課題 - レビューと課題の抽出 -. 日本土壌肥料学雑誌 73: 575-583 .
- 4) 坂本一憲 (2002) 公園や林でキノコをみつけよう pp. 6-7. 森の宝石オサムシ pp. 14-15. 小さな動物たちを観察しよう pp. 16-17. アカマツとマツタケ pp. 26-27. 植物に病気を起こすカビ pp. 28-29. 病原菌やセンチュウを退治する微生物 pp. 30-31. In: 土の絵本 2 土のなかの生き物たち (そだててあそぼう 8 集37巻). (ed. by 日本土壌肥料学会) 農村文化協会, 東京 .
- 5) 坂本一憲 (2002) ガーデニングの土をつくろう pp. 14-15. 落ち葉でたい肥をつくろう pp. 20-21. In: 土の絵本 3 作物をそだてる土 (そだててあそぼう 8 集38巻). (ed. by 日本土壌肥料学会) 農村文化協会, 東京.
- 6) 坂本一憲 (2002) ダイオキシンを食べるカビ pp. 12-13. 生ゴミから, たい肥をつくろう pp. 14-15. In: 土の絵本 5 環境をまもる土 (そだててあそぼう 8 集40巻). (ed. by 日本土壌肥料学会) 農村文化協会, 東京 .
- 7) 坂本一憲 (2002) PCR - DGGE法による作物根に共生したアーバスキュラー菌根菌の群集構造解析 (課題番号12660058) 平成12年度-平成13年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書 pp. 1-88.
- 8) Suzuki, H.; Kumagai, F., Mori, H., Sakamoto, K., Inubushi, K. and Enomoto, S. (2002) Influence of samarium on the uptake of trace elements by marigold. RIKEN Accel. Prog. Rep. 35: 119-120.

- 1) 崎尾均 (2002) 治山ダム直上流渓流域の土砂移動に対する植栽木の生残・成長特性. 日本林学会誌 84(1): 26-32.
- 2) Sakio, H.; Kubo, M., Shimano, K. and Ohno, K. (2002) Coexistence of three canopy tree species in a riparian forest in the Chichibu Mountains, central Japan. *Folia Geobotanica* 37: 45-61.
- 3) 崎尾均; 山本福壽 (共編著) (2002) 水辺林の生態学. 206 pp. 東京大学出版会, 東京.

- 1) Saha, U.K.; Taniguchi, S. and Sakurai, K. (2002) Simultaneous adsorption of cadmium, zinc, and lead from their mixed solutions on hydroxyaluminum- hydroxyaluminosilicate-montmorillonite complexes. *Soil Sci. Soc. Am. J.* 66(1): 117-128.
- 2) Rashid, Md.M.; Kang, Y. and Sakurai, K. (2002) Selenium in amorphous iron (hydr)oxide-applied soil as affected by air-drying and pH. *Soil Sci. Plant Nutr.* 48(2): 243-250.
- 3) Rashid, Md.M.; Kang, Y. and Sakurai, K. (2002) Selenium chemistry in amorphous iron (hydr)oxide-applied soil as influenced by redox potential (Eh) and pH. *Soil Sci. Plant Nutr.* 48(2): 261-269.
- 4) Kang, Y.M.; Inoue, N., Rashid, Md.M. and Sakurai, K. (2002) Fixation of soluble selenium in contaminated soil by amorphous iron (hydr)oxide. *Environ. Sci.* 15(3): 173-182.
- 5) Watanabe, E.; Sakurai, K., Junthotai, K., Tulaphitak, T., Narekul, T., Kunphan, P., Sampapol, R. and Sahunal, P. (2002) Performance of an agro-forestry system in an erosion-prone area of Northeast Thailand. *Tropics* 12(1): 1-17.
- 6) Kadir, S.; Sakurai, K., Kang, Y.M., Hirota, M. and Priatna, S.J. (2002) Effect of heating and rewetting on properties of Ultisols from South Sumatra Province, Indonesia. *Tropics* 12(1): 19-33.
- 7) Kobayashi, T.; Maeda, K., Iwasaki, K., Tanaka, S. and Sakurai, K. (2002) Changes in chemical and microbiological properties of soil by steam sterilization. *Trans. 17th World Congress of Soil Science*, Paper No. 753.
- 8) Kang, Y.; Tsuji, M., Kosuga, H., Sakurai, K. and Van, T.K. (2002) Evaluating boron behavior in soil and water as a step toward achieving sustainable agriculture. *Trans. 17th World Congress of Soil Science*, Paper No. 1180.
- 9) Sakurai, K.; Yamada, Y., Tulaphitak, T., Junthotai, K., Wacharintarat, C., Teejuntuk, S. and Sahunalu, P. (2002) Evaluation of site quality index for teak plantation in Thailand. *Trans. 17th World Congress of Soil Science*, Paper No. 350.
- 10) Tanaka, S.; Funakawa, S., Sukhrun, C., Kaewkhongkha, T., Iwasaki, K. and Sakurai, K. (2002) Soil organic matter and microbial biomass under shifting cultivation by Karen in Northern Thailand. *Trans. 17th World Congress of Soil Science*, Paper No. 740.

SUGIYAMA, Yukimaru 杉山幸丸

- 1) 杉山幸丸 (2002) チンパンジーと人間における分散する性について. 霊長類研究 18(1): 19-33.
- 2) Doran, D.M.; Jungers, W.L., Sugiyama, Y., Fleagle, J.G., Heesy, C.P. (2002) Multivariate and phylogenetic approaches to understanding chimpanzee and bonobo behavioral diversity. In: Behavioural Diversity in Chimpanzees and Bonobos. (ed. by Boesch, C.; Hohmann, G., Marchant, L.F.) pp. 14-34. Cambridge University Press, Cambridge.

SUZUKI, Eiji 鈴木英治

- 1) 宇都誠一郎; 鈴木英治 (2002) 桜島の昭和溶岩と大正溶岩における86年間の植生遷移 - 基質と種子供給源からの距離の影響. 日本生態学会誌 52: 11-24.
- 2) 鈴木英治 (2002) 植物を見る目. 科学 72(7): 720-724. 岩波書店, 東京.
- 3) 鈴木英治 (2002) 植物はなぜ5000年も生きるのか - 寿命からみた動物と植物のちがい. ブルーバックス B1365. 236 pp. 講談社, 東京.
- 4) Suzuki, E. (2002) Plants on Gn. Halimun National Park around Cikaniki and looptrail. 44 pp. JICA Biodiversity Conservation Project, Bogor.
- 5) 鈴木英治 (2002) ジャワ島ハリムン山国立公園の熱帯山地林. 国立科学博物館ニュース 401: 10-11.

TADAKI, Yoshiya 只木良也

- 1) 只木良也 (2002) 「自然は緑」の国の「自然と緑」. NPO自然と緑 9: 2.
- 2) 只木良也 (2002) 山と森. グリーン・エージ 337: 23-24.
- 3) 只木良也 (2002) 森林 - 21世紀にますます大事なものの. 森林林業交流研究発表会集録: 113-115. 近畿中国森林管理局.
- 4) 只木良也 (2002) 花報は寝てマツ. 京都御苑ニュース臨時増刊: 1-2.
- 5) 只木良也 (2002) 森と里山の生態学と都市に対する役割. 東海化学工業会会報 230: 1-4.
- 6) 只木良也 (2002) 今年も咲いた「寝ンネのサクラ」. 京都御苑ニュース 74: 2.
- 7) 只木良也; 中川有里, 池上博身 (2002) 小里山地域における植生の環境保全機能の相対的評価とその水平的分布標示の試み. 環境科学会誌 15: 341-348.
- 8) 只木良也 (2002) 「緑のダム」その意味するもの. PREC Study Report 8: 22-31.
- 9) 只木良也 (2002) 里山, その現状とエネルギー源としての試算. 春夏秋冬 28: 51-57.

TAYASU, Ichiro 陀安一郎

- 1) Tayasu, I.; Hyodo, F., Abe, T., Inoue, T. and Spain, A.V. (2002) Nitrogen and carbon stable isotope ratios in the sympatric Australian termites, *Amitermes laurensis* and *Drepanotermes rubriceps* (Isoptera: Termitidae) in relation to their feeding habits and the quality of their food materials. *Soil Biology and Biochemistry* 34: 297-301.
- 2) Tayasu, I.; Hyodo, F. and Abe, T. (2002) Caste-specific N and C isotope ratios in fungus growing termites with special reference to uric acid preservation and their nutritional interpretation. *Ecological Entomology* 27: 355-361.
- 3) Tayasu, I.; Nakamura, T, Oda, K., Hyodo, F., Takematsu, Y. and Abe, T. (2002) Termite ecology in a dry evergreen forest in Thailand in terms of stable- (^{13}C and ^{15}N) and radio- (^{14}C , ^{137}Cs and ^{210}Pb) isotopes. *Ecological Research* 17: 195-206.

UEDA, Keisuke 上田恵介

- 1) 上田恵介; 佐倉統 (監修) (2002) 動物たちの気になる行動(1) - 食う・住む・生きる篇 - . 198 pp. (2) - 恋愛・コミュニケーション篇 - . 192 pp. 裳華房, 東京.
- 2) 石毛久美子; 伊澤雅子, 上田恵介 (2002) 亜熱帯マングローブ林でのメジロを核とした混群形成. *Strix* 20: 153-158.
- 3) 高木憲太郎; 上田恵介 (2002) 日本国内におけるカラス・カモメ類の貝落とし行動の分布. *Strix* 20: 61-70.
- 4) 稲葉慎; 高槻成紀, 上田恵介, 伊澤雅子, 鈴木創, 堀越和夫 (2002) 個体数が激減したオガサワラオオコウモリ保全のための緊急提言. *保全生態学研究* 7: 51-61.

WADA, Eitaro 和田英太郎

- 1) Yoshioka, T.; Ueda, S., Miyajima, T., Wada, E., Yoshida, N., Sugimoto, A., Vijarnsorn, P. and Boonprakub, S. (2002) Biogeochemical properties of a tropical swamp forest ecosystem in southern Thailand. *Limnology* 3: 51-59.
- 2) 和田英太郎 (2002) 環境学入門 3 「地球生態学」. 171 pp. 岩波書店, 東京.
- 3) Nakagawa, F.; Yoshida, N., Sugimoto, A., Wada, E., Yoshioka, T., Ueda, S. and Vijarnsorn, P. (2002) Stable isotope and radiocarbon compositions of methane emitted from tropical rice paddies and swamps in southern Thailand. *Biogeochemistry* 61: 1-19.
- 4) Fujita, N.; Amartuvshin, N., Uchida, T. and Wada, E. (2002) Biodiversity and sustainability of Mongolian herbaceous plants subjected to nomadic grazing. In: *New Scope on Sustainable Watersheds in East Asia*. (ed. by Fujita, N.; Timoshkin, O.A., Urabe, J. and Wada, E.) DIWPA series 3: 101-107.
- 5) Boontanon, N.; Wada, E., Ueda, S. and Kanatharana, P. (2002) Intramolecular stable isotope

- ratios of N₂O: Implication on its origin in the tropical swamp forest. In: New Scope on Sustainable Watersheds in East Asia. (ed. by Fujita, N.; Timoshkin, O.A., Urabe, J. and Wada, E.) DIWPA series 3: 109-114.
- 6) Nakanishi, M.; Wada, E. (2002) Summary on the matter cycle in lake Biwa-Yodo River System. In: New Scope on Sustainable Watersheds in East Asia. (ed. by Fujita, N.; Timoshkin, O.A., Urabe, J. and Wada, E.) DIWPA series 3: 115-116.
- 7) 和田英太郎; 小川奈々子, 宮坂仁 (2002) バイカル湖: 安定同位体比から見た自然の実験室. 会誌「地球環境」7(1): 77-85.
- 8) Ogawa, N.O.; Wada, E. (2002) Nitrogen isotope ratio of fish specimens and sediments and a tool for evaluating recent changes in lacustrine environments. Frontier Research on Earth Evolution Vol. 1, IFREE Report for 2001-2002. Japan Marine Science and Technology Center 1: 263-266.

WATANABE, Akira 渡辺 彰

- 1) Maie, N.; Watanabe, A., Hayamizu, K. and Kimura, M. (2002) Comparison of chemical characteristics of Type A humic acids extracted from subsoils of paddy fields and surface and soils. Geoderma 106(1/2): 1-19.
- 2) Purwanto, B.H.; Kakuda, K., Ando, H., Shoon, J.F., Yamamoto, Y., Watanabe, A. and Yoshida, T. (2002) Nutrient availability and response of sago palm (*Metroxylon sagu Rottb.*) to controlled release N fertilizer on coastal lowland peat in the tropics. Soil Sci. Plant Nutr. 48(4): 529-537.
- 3) Yahai, L.; Watanabe, A. and Kimura, M. (2002) Contribution of plant-derived carbon to microbial biomass dynamics in a paddy rice microcosm. Biol. Fertil. Soils 36(2): 136-142.
- 4) Cahyani, V.R.; Watanabe, A., Matsuya, K., Asakawa, S. and Kimura, M. (2002) Changes in organic constituents of rice straw and succession of microbiota responsible for composting: Estimation by phospholipid fatty acid (PLFA) analysis. Soil Sci. Plant Nutr. 48(5): 735-743.
- 5) Abe, T.; Suwandhi, S.S., Wayang, S.A., Ando, H. and Watanabe, A. (2002) Incorporation of nitrogen from urea fertilizer into soil organic matter in rice paddy and cassava upland fields in Indonesia. Soil Sci. Plant Nutr. 48(6): 825-832.
- 6) 渡辺彰 (2002) 我が国の腐植物質研究とその展望 2 腐植物質の抽出および分画. 土肥誌 73(6): 797-802.

WATANABE, Mamoru 渡辺 守

- 1) 渡辺守 (2002) 理科教育と昆虫のかかわり. 昆虫と自然 37(7): 2-3.
- 2) 渡辺守 (2002) モンキチョウの交尾行動. In: 動物たちの気になる行動(2) (ed. by 上田恵介; 佐倉統) pp. 57-66. 裳華房 .

- 3) 渡辺守; 味村泰代, 東敬義 (2002) ヒヌマイトトンボのビオトープ総説に関する基礎的研究 - 生息地の微気象 - . 環境科学総合研究所年報 21: 47-58.
- 4) 蜂須賀綾子; 渡辺守 (2002) タイ・チェンマイにおいて同所的に生息するキチョウ属 4 種の交尾頻度と産卵数. 三重大学教育学部研究紀要 53 (自然科学): 81-90.

YACHI, Shigeo 谷内茂雄

- 1) 原雄一; 谷内茂雄, 脇田健一, 田中拓弥, 和田英太郎 (2002) 流域管理のための総合調査マニュアルの作成. (ed. by 土木学会) 第10回地球環境シンポジウム講演論文集 pp. 149-154 .
- 2) 谷内茂雄; 脇田健一, 原雄一, 田中拓弥 (2002) 水循環と流域圏 流域の水環境の総合的な診断法 - . 環境情報科学 31(4): 17-23. 環境情報科学センター.
- 3) 谷内茂雄 (編集・執筆(第1編1章1.1, 1.2, 第2編1章1.1, 2章2.1, 2.1.1, 2.8, 3章3.2, 3.4.4, 付録2)) (2002) 流域管理のための総合調査マニュアル. (ed. by 日本学術振興会 未来開拓学術研究推進事業 複合領域 6 :「アジア地域の環境保全」和田プロジェクト (JSPS-RFTF97I00602)) 384pp. 京都大学生態学研究センター, 大津.
- 4) Yachi, S. (2002) A co-dynamic model of sense of values, society and environment. In: New scope on sustainable watersheds in east Asia. (ed. by Fujita, N.; Timoshkin, O.A., Urabe, J. and Wada, E.) pp. 121. Nauka-Center, Novosibirsk.

YOSHIOKA, Takahito 吉岡崇仁

- 1) Yoshioka, T.; Ueda, S., Miyajima, T., Wada, E., Yoshida, N., Sugimoto, A., Vijarnsorn, P. and Boonprakub, S. (2002) Biogeochemical properties of a tropical swamp forest ecosystem of southern Thailand. *Limnology* 3: 51-59.
- 2) Nakagawa, F.; Yoshida, N., Sugimoto, A., Wada, E., Yoshioka, T., Ueda, S. and Vijarnsorn, P. (2002) Stable isotope and radiocarbon compositions of methane emitted from tropical rice paddies and swamps in Southern Thailand. *Biogeochemistry* 61: 1-19.
- 3) Lee, J.Y.; Yoshioka, T. and Hanazato, T. (2002) Faunal trophic interaction in an oligotrophic-dystrophic lake (Shirakoma-ike, Japan). *Limnology* 3(3): 151-158.
- 4) Yoshioka, T.; Ueda, S., Khodzher, T., Bashenkaeva, N., Korovyakava, I., Sorokovikova, L. and Gorbunova, L. (2002) Distribution of dissolved organic carbon in Lake Baikal and its watershed. *Limnology* 3(3): 159-168.
- 5) Yoshioka, T.; Ueda, S., Khodzher, T., Timoshkin, O., Bashenkaeva, N., Tomberg, I., Gorbunova, L., Khanaev, I. and Zhdanov, A. (2002) Dissolved organic matter in Lake Baikal and its watershed: A possible tool for studying the interaction between terrestrial and freshwater environments. In: *New Scope on Sustainable Watersheds Tomorrow*. (ed. by Fujita, N.; Timoshkin, O., Urabe, J. and Wada, E.) pp. 67-76. Nauka, Novosibirsk.

- 6) Kang, S.-J.; Yoshioka, T. and Kwak, A.-K. (2002) Vegetation and environmental change of high moor on Mt. Dae-Am of Korean Peninsula. The VIII INTECOL, August, Seoul, Korea, Proceedings. p. 111.
- 7) Ohte, N.; Kawasaki, M., Katsuyama, M. and Yoshioka, T. (2002) Carbon discharge through hydrological processes from a temperate forest watershed in the central Japan. The International Symposium on Response of Terrestrial Watershed Ecosystems in Monsoon Asia to Global Change, November, Kyoto, Japan, Abstract. p. 26.
- 8) Mostofa, K.M.G.; Yoshioka, T., Konohira, E. and Tanoue, E. (2002) Dynamics and Characteristics of Dissolved Organic Matter in the Lake Biwa Watershed, Japan. The International Symposium on Response of Terrestrial Watershed Ecosystems in Monsoon Asia to Global Change, November, Kyoto, Japan, Abstract. p. 43.
- 9) 吉岡崇仁 (2002) 環境評価における自然科学の役割 - 環境研究における自然科学と人文・社会学の融合への提言. 岩波「科学」72(9): 940-948.
- 10) 齊藤友則; 木庭啓介, 酒井徹朗, 亀田佳代子, 吉岡崇仁 (2002) コンジョイント分析を用いた野生動物問題に対する仮想的対策事前評価 - 滋賀県琵琶湖におけるカワウ問題を事例として - . 日本評価学会誌 2: 79-90.
- 11) 吉岡崇仁 (2002) 日本陸水学会第66回大会課題講演「集水域の生物地球化学」報告. 陸水学雑誌 63: 96-97.

生態研セミナー

生態研セミナー スペシャル

2002年4月17日

"Biodiversity and functional processes in river floodplain ecosystems"

Klement Tockner (the Swiss Federal Institute of Environmental Science and Technology, (EAWAG), Zuerich, Switzerland)

生態研セミナー スペシャル

2002年4月24日

"Patch leaving strategies and superparasitism: an asymmetric generalized war of attrition"

Patsy Haccou (Institute of Evolutionary and Ecological Sciences, Leiden University)

第141回 生態研セミナー

2002年6月21日

「ボウフラをめぐる種間関係：競争関係の空間的変異とトップダウン効果の抑制要因」

"Interactions of mosquito larvae: spatial variability of competition and factors damping topdown effects"

砂原俊彦（佐賀医科大学病因病態科学）

Toshihiko Sunahara (Division of Parasitology, Department of Microbiology, Saga Medical School)

「湖から集水域への物質の生物移送：淡水魚の移動とヨシノボリの生活史」

"Bio-transportation around Lake Biwa: Migration of fishes and life history of freshwater goby"

遊磨正秀（京大大学生態学研究センター）

Masahide Yuma (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2002年7月16日

"Fragile Dominion: Complexity and the Commons"

Simon A. Levin (Department of Ecology and Evolutionary Biology, Princeton University)

第142回 生態研セミナー

2002年7月19日

「時計遺伝子の多面発現と生殖隔離」

"Pleiotopic effect of clock genes and reproductive isolation"

宮竹貴久（岡山大学農学部動物集団生態学分野）

Takahisa Miyatake (Laboratory of Animal Population Ecology, Faculty of Agriculture, Okayama University)

「ニホンミツバチの体内時計とその生態機能」

"Biological clock and its ecological function in the honey bee, *Apis cerana japonica*"

清水 勇（京大大学生態学研究センター）

Isamu Shimizu (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2002年8月30日

"The effect of resource and phylogenetic constraints on the evolution of the preference and performance relationship in *Aphrophora pectoralis*"

Timothy P. Craig (Department of Biology, University of Minnesota, Duluth)

"Macroevolutionary theory on macroecological patterns"

Peter W. Price (Department of Biological Sciences, Northern Arizona University)

第143回 生態研セミナー

2002年9月20日

「生物多様性や自然生態系機能の経済的評価」

"Economic evaluation on biodiversity and natural ecosystem"

長谷川 弘 (広島修道大学人間環境学部)

Hiroshi Hasegawa (Faculty of Human Environmental Studies, Hiroshima Shudo University)

「琵琶湖百年誌」

"A hundred years history of Lake Biwa"

山村則男 (京大大学生態学研究センター)

Norio Yamamura (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2002年10月4日

"Human impacts and extinction: lessons from the recent geological past"

Barry W. Brook (Key Centre for Tropical Wildlife Management, Northern Territory University)

第144回 生態研セミナー

2002年10月18日

「土壌微生物多様性の維持機構としての鉱物内部細菌」

"Role of silicified bacteria within minerals in maintaining the diversity of soil bacteria"

服部 勉 (東北大学名誉教授)

Tsutomu Hattori (Emeritus Professor, Tohoku University)

「ガスの放出から見たメタン生成微生物共生系」

"Methane producing microbial system inferred from gas metabolism"

杉本敦子 (京大大学生態学研究センター)

Atsuko Sugimoto (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第145回 生態研セミナー

2002年11月22日

「アブラムシ捕食者ギルドにおける食物網動態：ギルド内捕食の重要性」

"Food web dynamics in aphidophagous guilds: a consequence of intraguild predation"

安田弘法 (山形大学農学部)

Hironori Yasuda (Faculty of Agriculture, Yamagata University)

「モンゴル遊牧草原の生物多様性、物質循環、持続的利用における人間活動の影響」
"Human impact on biodiversity, matter cycle, and sustainable use of Mongolian nomadic pastures"
藤田 昇（京都大学生態学研究センター）
Noboru Fujita (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第146回 生態研セミナー

2003年1月17日

「陸域と水域における生態系の構造と機能に関する最近の話題」
"Macroecological comparisons of land and water: Toward developing a concept of "earth ecology"
北山兼弘、永田 俊、山村則男（京都大学生態学研究センター）
Kanehiro Kitayama, Toshi Nagata and Norio Yamamura (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第147回 生態研セミナー

2003年2月21日

「サンゴ礁池におけるサンゴ礫底の移動性動物群集の群集構造」
"Community structure of mobile benthic invertebrates on coral rubble habitats in coral reefs"
高田宜武（独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所石垣支所）
Yoshitake Takada (Ishigaki Tropical Station, Seikai National Fisheries Research Institute, Fisheries Research Agency)

「野外および実験室内における補食性天敵の植食者被害植物由来の揮発性物質に対する応答」
"Response of carnivorous natural enemies of herbivores to volatiles from prey-infested plants under both laboratory and field conditions"
高林純示（京都大学生態学研究センター）
Junji Takabayashi (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

2003年3月6日

"The adaptive dynamics of function-valued traits: A new modeling tool for research in evolutionary ecology"
Ulf Dieckmann (Adaptive Dynamics Network, International Institute for Applied Systems Analysis, Laxenburg, Austria) and Mikko Heino (Institute of Marine Research, Bergen, Norway)

生態研セミナー スペシャル

2003年3月12日

「迅速な進化が捕食者と餌の個体群動態を駆動する」
"Rapid evolution drives ecological dynamics in a predator-prey system"
吉田丈人（Cornell大学生態学進化生物学部）
Takehito Yoshida (Cornell University)

「複雑な生態系ほど長続きする？～「柔らかい食物網」仮説の提案～」
"Are more complex food webs more stable? ~ Flexible food-web hypothesis ~"
近藤倫生（京都大学生態学研究センター / カーディフ大学生物多様性・生態過程研究グループ）
Michio Kondoh (Center for Ecological Research, Kyoto University / Cardiff University)

調査船「はす」運航及び利用実績表（平成14年度）

延べ運航日数 88日

延べ乗船者数 346名

延べ共同利用者数（非乗船者を含む） 64名

月日	時間	用務内容	乗船者数				その他（非乗船者）	
			技官	教官	院生等	共同利用	センター内	共同利用者
H.14								
4 / 2	8:25~13:40	ユスリカ幼虫採集用採泥（ドレヅジ）	2	1				
/ 3	8:25~12:25	N ₂ Oガス測定用採水	2		1			
/ 8	8:35~10:35	リンとバナジウム南湖分布調査	2			1		
/15	7:40~16:50	琵琶湖南北トランセクト ユスリカ幼虫飼育用採水	2	1	3		1	
/18	7:35~11:25	琵琶湖南北トランセクト	2		3			
/19	7:35~12:40	琵琶湖南北トランセクト	2		3			
/22	8:05~10:05	定期観測 ミジンコ室内実験用採泥（K2サンブラー）	2	1	1			
/26	8:20~11:35	安定同位体試料採集（プランクトン，POM）	2					
5 / 9	10:55~ ~12:10	船ガイダンス 動物プランクトン飼育用採集（柵曳き）Daphnia培養用採水	2		4 1	3		1
/14	8:40~10:50	リンとバナジウム南湖分布調査	2			4		
/15	8:15~ ~11:40	溶存有機物の分析用採水 マイクロビアルループ採水 Daphnia培養用採水	2		2			1
/17	9:00~12:40	栄養塩（P.N.Si）分布調査 Daphnia培養用採水	2			4		1
/20	8:30~12:25	定期観測 Daphnia培養用採水	2					1
/22	8:20~10:20	マイクロビアルループ採水 Daphnia培養用採水	2		1			1
/28	8:15~11:45	安定同位体試料採集（プランクトン，POM）Daphnia培養用採水	2					1
/30	8:10~11:25	マイクロビアルループ採水 Daphnia培養用採水	2		1			1
6 / 5	8:15~10:05	マイクロビアルループ採水 Daphnia培養用採水	2		1			1
/10	9:00~15:55	Daphnia休眠卵採集（大コサブラー）Daphnia培養用採水	2	1	3	1		
/11	8:30~10:26	リンとバナジウム南湖分布調査	2			2		
/13	8:05~10:20	マイクロビアルループ採水 Daphnia培養用採水	1		1			1
/17	7:35~16:25	琵琶湖南北トランセクト	1	1	2			
/19	7:35~12:30	琵琶湖南北トランセクト 定期観測	1	1	2			
/20	7:35~11:55	琵琶湖南北トランセクト マイクロビアルループ採水	1	1	2			
/24	8:20~11:40	安定同位体試料採集（プランクトン，POM）	1		1			
/26	8:20~11:40	マイクロビアルループ採水 溶存有機物の分析用採水	1		2			
7 / 2	8:20~ ~11:30	マイクロビアルループ採水 溶存有機物の分析用採水 湖水中細胞外DNA量の定量用採水	1		2			1
/ 9	8:35~10:30	リンとバナジウム南湖分布調査	2			2		
/12	8:10~11:10	マイクロビアルループ採水 Daphnia遺伝解析用ネット曳き採集	2		2			
/15	8:35~10:00	植物プランクトン実験用採水	2	1	2			
/17	8:10~11:40	マイクロビアルループ採水 溶存有機物の分析用採水	2		2			
/22	8:25~11:10	定期観測 安定同位体試料採集（プランクトン，POM）	2					
/24	8:20~10:15	マイクロビアルループ採水	2		1			
8 / 1	8:30~10:45	マイクロビアルループ採水	2		1			
/ 6	8:30~10:45	リンとバナジウム南湖分布調査	2			2		
/ 7	8:20~10:15	マイクロビアルループ採水	2		1			
/12	8:35~11:30	栄養塩（P.N.Si）分布調査	2			4		
/14	8:00~11:25	マイクロビアルループ採水 溶存有機物の分析用採水	2		2			
/20	8:15~ 8:55	定期観測 荒天のため中止	2					
/21	7:50~ 8:45	マイクロビアルループ採水 荒天のため中止	2	1	3			
/22	7:45~14:15	マイクロビアルループ採水	2		3			
/23	8:25~12:25	定期観測	2					
/26	8:10~10:50	安定同位体試料採集（プランクトン，POM）	2					
/27	9:25~14:10	京大理学部湖沼実習	2	2		4		
/28	8:30~10:10	マイクロビアルループ採水	2		1			
9 / 3	8:50~13:20	ユスリカ幼虫採集用採泥（エックマン採泥器・ドレヅジ）	2	1				
/ 4	8:20~10:35	マイクロビアルループ採水	2		1			
/ 5	8:30~10:15	リンとバナジウム南湖分布調査	2			1		
/11	8:25~13:45	竹生島周辺D.O調査（採水・SBEキャスト）	2	1	3			
/18	8:20~10:15	マイクロビアルループ採水 D.O実験用採水	2		1			1
/19	8:35~13:35	ユスリカ幼虫採集用採泥（エックマン採泥器・ドレヅジ）	2	1				
/20	8:30~11:55	定期観測 安定同位体試料採集（プランクトン，POM）	2					

月日	時間	用務内容	乗船者数				その他(非乗船者)	
			技官	教官	院生等	共同利用	センター内	共同利用者
10/1	7:50~ ~10:05	マイクロビアルループ採水 溶存有機物の分析用採水 バクテリア測定用採泥(K2サンプラー)	2		2	1		
/8	8:40~ ~11:20	リンとバナジウム南湖分布調査 植物色素分析用採水 堆積物からのP還元溶出分析用採水	2			2 2		
/16	8:40~10:40	植物プランクトン培養用採水	2		1			
/17	8:20~ ~11:05	マイクロビアルループ採水 溶存有機物の分析用採水 D.O実験用表層採水	2		2		1	
/21	8:25~11:40	定期観測 安定同位体試料採集(プランクトン, POM)	2					
/25	8:45~13:25	ユスリカ幼虫採集用採泥(ドレッジ)	2	1				
/31	7:50~14:25	生物地球科学的観測	2	1	3			
11/1	7:40~16:55	竹生島周辺D.O調査(D.O実験用採水・トランセクトSBEキャスト)	2		2			
/7	8:30~12:55	ユスリカ幼虫採集用採泥(エックマン採泥器・ドレッジ)	2	1		1		
/12	8:40~10:20	リンとバナジウム南湖分布調査	2			2		
/13	8:40~10:20	SBEキャスト&採泥(大コアサンプラー)デモンストレーション	2	1	3	3		
/14	8:35~11:30	栄養塩(P.N.Si)分布調査	2			4		
/19	8:25~12:10	定期観測 有機炭素と含有金属測定用採泥(K2サンプラー)	2			2		
/20	8:25~ ~13:05	ユスリカ幼虫採集用採泥(エックマン採泥器・ドレッジ) チオプロールカ採集(ドレッジ)	2	1		1 1		
/28	10:25~12:05	マイクロビアルループ採水	2		1			
/29	8:05~10:50	安定同位体試料採集(プランクトン, POM)	2					
12/3	8:25~13:10	ユスリカ幼虫採集用採泥(エックマン採泥器・ドレッジ)	2	1		1		
/11	8:25~9:55	リンとバナジウム南湖分布調査 植物色素分析用採水	2			3		
/16	8:10~15:35	マイクロビアルループ採水	2		4			
/18	8:20~12:10	定期観測 安定同位体試料採集(プランクトン, POM)	2					
/24	8:30~13:15	ユスリカ幼虫採集用採泥(エックマン採泥器・ドレッジ)	2	1		1		

H.15								
月日	時間	用務内容	技官	教官	院生等	共同利用	センター内	共同利用者
1/8	8:40~9:40	D.O消費速度測定用採水 酵素活性測定用採水	2		2			
/9	8:30~ ~13:30	ユスリカ幼虫採集用採泥(エックマン採泥器・ドレッジ) チオプロールカ採集	2	1		1		1
/21	8:30~10:00	リンとバナジウム南湖分布調査	2			2		
/22	8:30~11:35	定期観測 安定同位体試料採集(プランクトン, POM)	2					
2/3	8:30~14:10	ユスリカ幼虫採集用採泥(エックマン採泥器)	2	1		1		
/17	8:25~12:35	定期観測(ベントスソーティングメソッド検討含む)	2					
/18	8:35~10:17	リンとバナジウム南湖分布調査	2			2		
/20	8:35~11:23	栄養塩(P.N.Si)分布調査	2			4		
/24	7:45~12:45	マイクロビアルループ採水	2	1	3			
/25	7:35~14:50	SBE911+によるトランセクト	2		2			
/26	7:30~9:50	D.O消費速度測定用採水 酵素活性測定用採水	2		2			
/28	8:20~12:45	安定同位体試料採集(プランクトン, POM)	2		1			
3/13	8:40~12:25	ユスリカ幼虫採集用採泥(エックマン採泥器・ドレッジ)	2	1		1		
/20	8:25~9:10	定期観測 安定同位体試料採集(プランクトン, POM) 荒天中止	2					
/25	8:20~11:30	定期観測 安定同位体試料採集(プランクトン, POM)	2					
/26	7:40~ ~16:35	SBE911+によるトランセクト 酵素活性測定用採水 底泥中メタン生成場所特定実験用採泥(K2サンプラー)	2		2		1	

あとがき

今回の業績集は、広報事務の担当が中島早苗さんに代わってからはじめて担当されたものです。初めてのことでいろいろと戸惑われたと思いますが、どうもありがとうございました。

本目録の編集にあたり、32名の協力研究員の方々から業績をご報告いただきました。ご協力ありがとうございました。今後ともよろしく願いたします。

(編集担当：山内 淳)